

2024 年度
岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業
報 告 書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

岩手県高次脳機能障害支援拠点機関

目 次

ご挨拶

I	事業概要	1
II	事業実施報告	4
1	事業報告書	4
2	相談支援状況	7
3	精算書	13
4	会議・研修会・イベント実績	15
5	高次脳機能障がいカルタ無料配布のお知らせ	37
III	岩手県内の支援拠点機関一覧等	39
1	岩手県支援拠点機関	39
2	地域支援拠点機関	39
3	令和6年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会名簿	40

ご挨拶

いわてリハビリテーションセンター

センター長 佐藤 義朝

岩手県における高次脳機能障がい者の支援体制構築を目的として、当センターは平成 19 年に岩手県より支援拠点機関に指定されて以来、関係機関と連携しながら、当事者の診断・治療から社会参加に至るまで一貫した支援活動に取り組んでまいりました。

令和 6 年度も、行政、医療、福祉の皆様のご支援のもと、多様な研修・交流事業を実施いたしました。その活動の一つである「じゃじゃじゃ交流会 2024 in 北上」では、ひきこもり支援や認知症支援の団体、スクラッチアートや就労支援に携わる講師をお招きし、多彩なグループワークを実施いたしました。また、当事者による作品展示を通じて、市民の皆様が高次脳機能障害への理解を深めていただく貴重な機会を創ることができました。

また、医療従事者向けの研修では、岩手医科大学附属病院脳卒中・心臓病総合支援センターとの共催により、中国労災病院の豊田先生を講師に迎え、臨床現場での知見を深める場を設け、集合研修会が 17 名（うち医師 4 名）、オンデマンド配信が 87 名（うち医師 12 名）の参加をいただくことができました。

さらに、地域支援者向け研修では、当事者・ご家族・支援者を講師としてお招きし、グループワークを通じてアセスメントや支援計画のあり方について意見を交わすことができました。

この事業の推進にあたり、当センターでは、医療職に加えて、相談支援コーディネーター（社会福祉士 2 名・臨床心理士 2 名）を配置し、診断支援、社会資源の利用支援、復職・復学支援、自動車運転再開支援など、きめ細やかな支援を行っており、これからの継続していく所存でございます。

最後に、これからも当事者やご家族が安心して暮らせる地域社会の実現をめざし、関係機関の皆様と連携を図りながら活動を継続・発展させてまいりますので、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

I 事業概要

高次脳機能障がいへの支援の取組みについて

I 本県における現状と課題

＜障がいの概要＞

脳の器質的病変の原因となる交通事故による受傷や脳卒中等の疾病により発生する、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい及び社会的行動障がい。

＜対象者数＞

高次脳機能障がい者数（推計）

県全体 2,751 人（地区内訳 盛岡 1,028 人、県南 1,054 人、沿岸 421 人、県北 248 人）

※ 国立障害者リハビリテーションセンターがモデル事業実施時に調査した全国の高次脳機能障がい者数の人口比率を岩手の人口比率に換算して算定したものである。

全国の人口	:	全国の高次脳機能障がい者数	=	県人口 * (A)	:	県内の高次脳機能障がい者数 (B)
128,000,000 人	:	274,000 人	=	1,284,732 人	:	2,751 人

* 県人口は、岩手県毎月人口（平成 26 年 9 月 1 日現在）

*（参考）比率：0.00214【B/A】

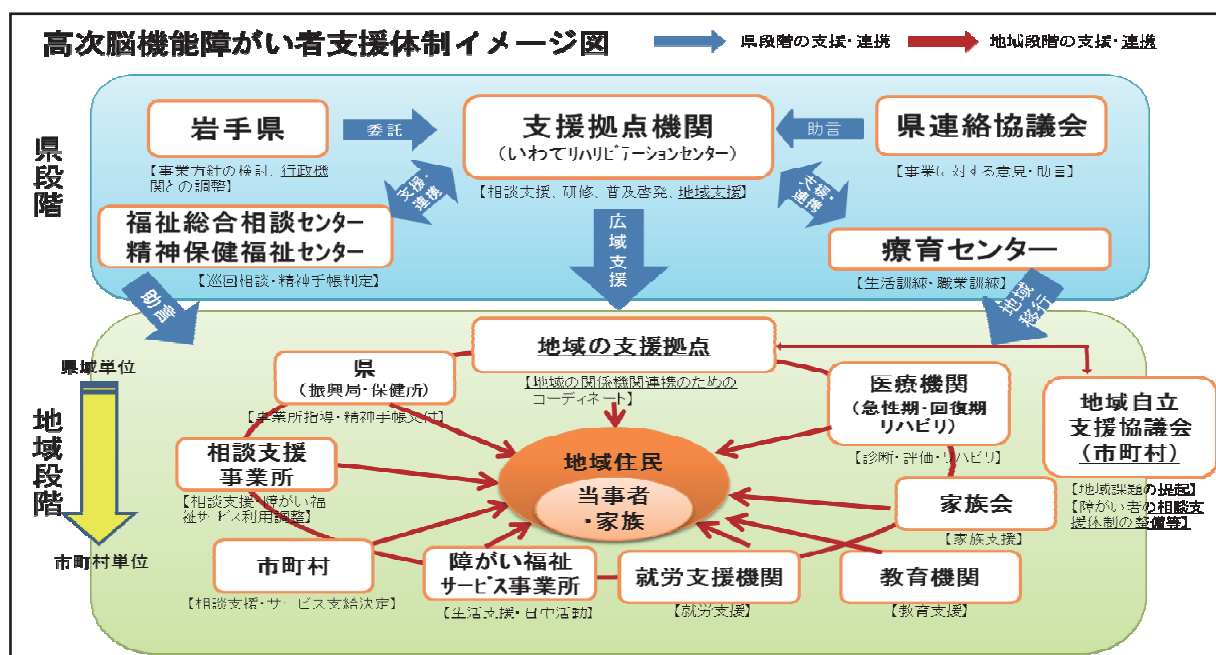
高次脳機能障がい者は、日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象となり、また発症（受傷）が 18 歳未満で、知的障害と判定された場合に、療育手帳の申請対象となっている。

県内の関係機関で支援を行った高次脳機能障がい者の数が増加している一方、まだ支援実績がない関係機関もあり、関係者の高次脳機能障がいに対する知識や経験が不足している。

また、県民の高次脳機能障がいに関する理解が不足している状況にある。

II 課題への対応（主な取組）

県では、相談支援ネットワークの構築や人材育成、活動交流の場の確保など、高次脳機能障がい者が、孤立せず安心して暮らせる地域づくりに向けて取組を進めている。



1 県の支援拠点機関の設置（いわてリハビリテーションセンター） 平成 19 年度～

相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援、関係機関との連携、調整を行う。

また、普及啓発活動の他、支援者を対象とした研修の実施や地域支援拠点への訪問等、地域での高次脳機能障がい者への取組を支援する。

【主な取組内容】

(1) 高次脳機能障がい者支援普及事業の実施

① 相談支援の実施

支援拠点機関において、相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援及び地域の関係機関との調整を行う。

② 普及啓発活動及び研修の実施

- ・高次脳機能障がいの正しい理解の促進のための普及啓発活動（講演会等のイベント開催、啓発資材の配布等）を実施。
- ・自治体職員、保健・福祉・医療関係者等を対象とする研修会を開催し、高次脳機能障がいの評価・診断・手法等に関する研修及び普及啓発を実施。
- ・各種会議、研修を通じて行政担当者、相談支援従事者等の連携を推進する。

③ 県連絡協議会の設置・運営

連絡協議会委員による事業全体の検討及び評価を実施する。

令和 6 年 9 月 3 日（火） 15：00～16：30 集合形式

令和 7 年 3 月 26 日（水） 16：00～17：15 集合形式

④ 東北ブロック会議（東北 6 県持ち回り）の開催

各県及び支援拠点機関等の取組及び現状報告、情報交換等を行う。（書面開催）

(2) 高次脳機能障がい者支援体制整備事業（地域支援）の実施

① 地域支援コーディネーターの配置

地域支援を行うため、支援拠点機関に地域支援コーディネーターを配置する。

② 地域の支援拠点等への訪問支援等

地域の支援拠点等が実施する相談支援やケース会議等への助言や研修の企画支援等を訪問支援等により実施し、相談支援ネットワークの強化を図る。

③ 地域の支援拠点の支援者等育成研修

圏域相談支援コーディネーター研修会

令和 6 年 11 月 7 日（木） 13：00～15：00 集合形式

2 地域の支援拠点の設置 平成 27 年度～

身近な地域で、受傷・発症から社会復帰まで切れ目なく相談・支援を行うことができるよう、順次障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点を設置し、相談支援体制を整備するとともに、高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。

1 年目	2 年目	3 年目以降
■ 高次脳機能障がい者 地域支援体制整備事業 【概要】 地域の関係機関の連携による相談支援体制を整備するために、地域の支援拠点を設置し、高次脳機能障がい者に対する支援を行う。 【内容】 ① 連絡会の設置・運営 ② 関係機関とのケース会議 ③ 地域の相談支援等 ④ 高次脳機能障がい支援者研修 ⑤ 家族等に対する普及啓発（家族教室等）	■ 高次脳機能障がい者 支援普及事業 【概要】 高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。 【内容】 ⑥ 普及・啓発事業 一般住民、家族、当事者、支援者等への正しい理解の普及啓発 ※①～⑤は、地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。	※地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業や支援普及事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。

【実績】

圏域名	H27 年度実績	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度実績
気仙、宮古	体制整備事業	支援普及事業			
久慈、二戸		体制整備事業	支援普及事業		
胆江、釜石			体制整備事業	支援普及事業	
盛岡、中部				体制整備事業	支援普及事業

【地域の支援拠点の設置状況】

年度	圏域	委託先	地域の支援拠点
27	気仙	社会福祉法人大洋会	地域活動支援センター星雲 相談室
	宮古	NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援事業所れいんぼー
28	久慈	社団医療法人祐和会	地域生活支援センター久慈
	二戸	社会福祉法人カシオペア障連	地域生活支援センター・カシオペア
29	釜石	釜石大槌地域障がい者自立支援協議会	地域活動支援センター釜石
	胆江	奥州市	愛護会障害者相談支援センター
30		社会福祉法人フレンドシップいわて	指定相談支援事業所サポートにじ
30	盛岡	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ
	中部	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南地区
	両磐	—	—

※ 両磐圏域については、圏域内の市町や関係機関と協議を重ねた結果、県の委託による事業は実施せず、既存の相談支援体制により対応されることとなったため、委託先及び地域の支援拠点はなし。

II 事業実施報告

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業「県の支援拠点機関による地域支援」

令和6年度事業報告書

1 令和6年度の重点事項

- (1) 地域の実情に合わせて、高次脳機能障がい者の受け入れの拡大を図る。
- (2) 地域の支援ネットワークの構築に向けて、関係機関の調整を図る。

2 支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催

(1) 高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会

①第1回 令和6年9月3日(火) 15:00-16:30 集合形式 参加者:26名参加

②第2回 令和7年3月26日(水) 16:00-17:30 集合形式 参加者:23名参加

(2) 圏域相談支援コーディネーター会議

令和6年11月7日(木) 10:30-12:00 場所:エスポワールいわて

県職員1名、圏域相談支援コーディネーター9名、事務局2名 計12名参加

3 事業運営のための会議の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援担当者会議 12回開催
- (2) 高次脳機能障がい者カンファレンス 10回開催

4 専門的な相談支援体制の整備

相談支援コーディネーター4名(MSW2名、心理士2名)を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

- (1) 当事者及び家族の相談支援 のべ648件(4/1~3/31まで) 【参考】R5同期間のべ853件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R5	比較増減
電話	233件	338件	-105
来院／来所	356件	395件	-39
メール・書簡	40件	95件	-55
その他(訪問・同行等)	19件	25件	-6

- (2) 機関及び施設等の相談支援 のべ件356件(4/1~3/31まで) 【参考】R5同期間のべ438件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R5	比較増減
電話	257件	331件	-74
来院／来所	16件	48件	-32
メール・書簡	83件	58件	+25
その他(訪問・同行等)	0件	1件	-1

5 支援の普及に向けた研修会の開催

- (1) 高次脳機能障がい圏域コーディネーター研修会（圏域のコーディネーター対象）
令和6年11月7日(木) エスポワールいわて
圏域相談支援コーディネーター7名、事務局2名 計9名参加
- (2) 高次脳機能障がい支援研修会（医師及びコメディカル対象）
集合研修会：令和7年1月21日(火)19:00-21:00 場所：エスポワールいわて
オンデマンド配信：令和7年2月4日(火)～25日(火)
講演：脳卒中後の治療と仕事の両立支援
講師：中国労災病院治療就労両立支援センター所長 豊田章宏先生
申込：集合研修会 17名（うち医師4名）
オンデマンド配信 87名（うち医師12名）
- (3) 高次脳機能障がい支援研修会（地域の支援者対象）
令和7年1月17日(金) いわて県民情報交流センターアイーナ 参加者：30名
講師：栃内第二病院リハビリテーション部副部長公認心理士山舘圭子氏
NPO法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ
ピアサポーター 菊地純也氏
ピアカウンセラー阿部徳乃氏
- (4) フォーラム（県民対象）
令和6年11月9日(土) いわて県民情報交流センターアイーナ
いわてリハビリテーションフォーラムにて、高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行った。
- (5) 地域支援拠点機関との合同研修会（各圏域の地域ニーズに対応）
令和6年10月6日(水) 水沢メイプル 参加者：43名
講師：いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障害支援コーディネーター 3名
NPO法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ
代表 堀間幸子氏
ピアサポーター澤野恵子氏

6 地域における支援体制整備のための支援

- (1) 盛岡圏域
 - ①研修会：ピアサポーター養成準備研修会 令和6年12月8日（職員1名派遣）
 - ②家族会：サロン de イーハトーヴ第3回 令和7年3月9日（職員2名派遣）
- (2) 岩手中部圏域
 - ①連絡会：令和6年7月18日（職員2名派遣）
 - ②当事者家族会：令和7年2月13日、3月13日（職員1名派遣）
- (3) 胆江圏域
 - ①研修会：奥州市自立支援協議会 高次脳機能障害研修会 令和6年10月6日（職員3名派遣）
- (4) 宮古圏域
 - ①連絡会：令和7年3月27日（職員2名派遣）

7 事業周知のためのPR・広報活動の実施

- (1) 当センターホームページにて、県内の研修情報を掲載した。
- (2) メールニュースを配信し、高次脳機能障がいに対する理解と支援の拡大を図った。
- (3) カルタの無料配布を継続して実施した。申し込みに応じてカルタを郵送した。

8 当事者・家族を中心とした普及啓発事業の実施

(1) じゃじゃじゃ交流会 令和6年9月22日(土)13:00-16:00

参加者:143名(当事者27名、家族16名、支援者47名、一般53名)

(2) 当事者のためのオンラインサロン 毎月第4土曜日10:30-12:00に実施

- ①4月27日 当事者7名 当センター職員2名 ②5月26日 当事者6名 当センター職員2名
 ③6月22日 当事者6名 当センター職員3名 ④7月27日 当事者9名 当センター職員1名
 ⑤8月24日 当事者7名 当センター職員3名 ⑥9月28日 当事者5名 当センター職員2名
 ⑦10月26日 当事者7名 当センター職員2名 ⑧11月23日 当事者7名 当センター職員3名
 ⑨12月28日 当事者5名 当センター職員3名 ⑩1月25日 当事者5名 当センター職員3名
 ⑪2月16日 当事者5名 当センター職員2名
 ⑫3月16日 当事者8名 当センター職員2名 ※対面開催

当事者延べ77名参加

9 全国・東北ブロック組織及び県内関係機関との連携・協力

(1) 会議及び研修会等での連携

会議名・研修会名等	期日	場所・方法	出席者等
高次脳機能障害全国連絡協議会 第1回	6/26	Web	4名(県庁・リハセン担当者)
第2回	2/14	Web	4名(県庁・リハセン担当者)
高次脳機能障害東北ブロック会議	10月	書面開催	
高次脳機能障がい者支援にかかる三者会議	8/26	エスポワールいわて	6名(県庁・リハセン担当者) 4名(イーハトーヴ)
日本高次脳機能障害友の会第20回全国大会 2024in 福島	10/4- 10/5	ホテルハマツ (郡山市)	職員1名派遣 気仙圏域1名、胆江圏域1名
いわて脳損傷リハビリテーション講習会	①9/7 ②11/13	①岩手広域交流 センター「プラ ザあい」 ②ホテルニュー カリーナ	実行委員として職員3名対応
第2回高次脳機能障がい支援セミナー(福岡県、 福岡県障がい者リハビリテーションセンター)	2/21	Web	職員1名派遣
山形県高次脳機能障がい研修会	3/14	山形市総合福祉 センター	職員を講師として1名、参加者 として1名派遣

(2) 機関としての連携

①いわて高次脳機能障害友の会「イーハトーヴ」

・研修会及び講習会の開催、地域支援拠点機関の支援について連携協力を行った。

②岩手障害者職業センター

・高次脳機能障がいのケース支援を協働で行った。

10 コーディネーターのスキルアップのための研修派遣

(1) 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

第1回 令和6年6月26日 Web開催(職員2名参加)

第2回 令和7年2月14日 Web開催(職員2名参加)

(2) 高次脳機能障害支援者養成研修(指導者研修)

令和6年7月10日～7月12日 Web開催(職員1名参加)

(3) 高次脳機能障害支援コーディネーター研修会

令和6年10月4日(職員1名参加)

2 相 談 支 援 状 況

いわてリハビリテーションセンター

高次脳機能障害支援状況（令和6年度）

	新規	継続	主治医		方法								カン ファ レンス	合計	備考
					面談		電話		訪問		文書				
			当院	他院	直接	間接	直接	間接	直接	間接	直接	間接			
4月	2	43	20	25	20	0	6	14	0	0	2	3	0	45	
5月	1	40	12	29	11	0	7	12	0	0	0	10	1	41	
6月	3	35	20	18	14	1	10	7	0	0	3	3	0	38	
7月	5	61	44	22	14	0	16	21	0	0	0	14	1	66	
8月	3	72	55	20	35	1	14	15	0	0	3	5	2	75	
9月	8	92	45	55	44	1	18	20	0	0	4	11	2	100	
10月	12	100	69	43	42	4	20	30	0	0	6	8	2	112	
11月	5	113	65	53	49	0	23	27	0	0	5	12	2	118	
12月	6	78	61	23	30	2	18	23	0	0	5	6	0	84	
1月	11	79	48	42	25	0	25	28	0	0	8	3	1	90	
2月	10	120	86	44	41	3	41	34	2	0	1	7	1	130	
3月	9	96	45	60	31	4	35	26	4	0	3	1	1	105	
合計	75	929	570	434	356	16	233	257	6	0	40	83	13	1004	

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
外来受診	3	8	4	19	8	29	15	9	11	13	19	28	166	
入院検査	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
診断/評価	6	4	3	1	6	9	19	4	1	15	21	6	95	
医療/生活	1	0	0	0	0	2	8	2	0	0	0	1	14	
交通事故関係	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	
障害者手帳関係	0	2	5	3	13	5	8	14	8	15	12	8	93	
福祉サービス利用	1	0	3	3	3	3	10	8	9	10	14	9	73	
年金/社会保障制度	3	7	7	8	9	7	3	18	10	23	30	28	153	
日常生活	5	1	4	2	7	7	14	19	11	14	21	15	120	
家族/対人関係	8	1	2	4	4	6	16	14	7	13	18	18	111	
復学/教育	4	3	0	1	2	5	1	1	0	1	1	1	20	
復職/就業	19	9	17	23	30	31	41	56	38	35	40	29	368	
職業訓練/評価	1	0	0	13	3	0	2	0	0	0	0	1	20	
自動車運転関係	2	12	7	8	10	25	25	14	11	3	14	9	140	
障害理解/対応	3	0	0	1	4	7	2	1	1	5	5	2	31	
家族会関係	0	0	1	1	0	3	5	0	1	0	1	0	12	
その他	0	0	1	0	3	0	0	2	0	0	2	1	9	

令和6年度 高次脳機能障がい者支援普及事業相談支援状況報告書

いわてリハビリテーションセンター

【相談支援の概要】

1 相談件数 延べ1,004件 (4/1～3/31) 実人数114人

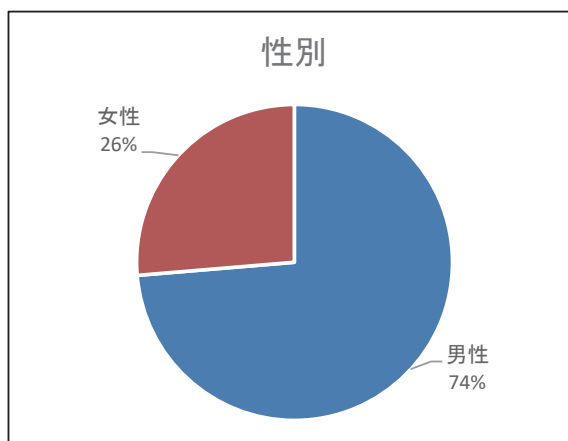
※令和5年度同期間実績:1,291件(実人数116名)

2 相談対象者の属性

(1) 性別

男性：84名 (74%)

女性：30名 (26%)



(2) 年齢構成

10歳未満：0名 (0%)

10歳代：3名 (2%)

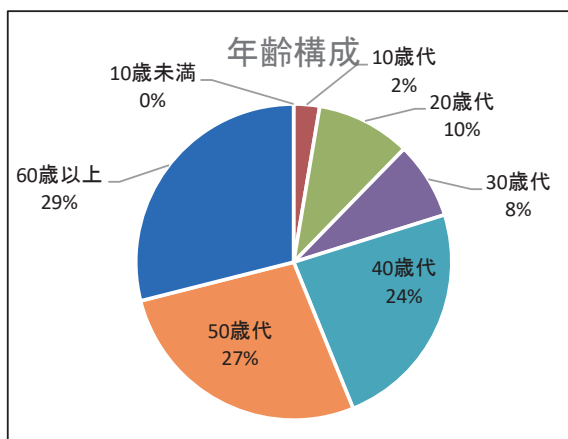
20歳代：11名 (10%)

30歳代：9名 (8%)

40歳代：27名 (24%)

50歳代：31名 (27%)

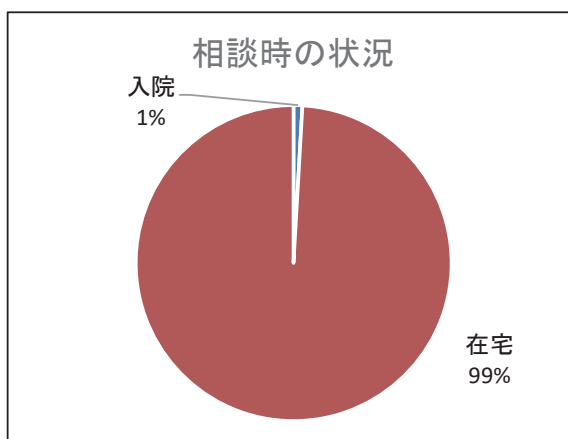
60歳以上：33名 (29%)



(3) 相談時の状況

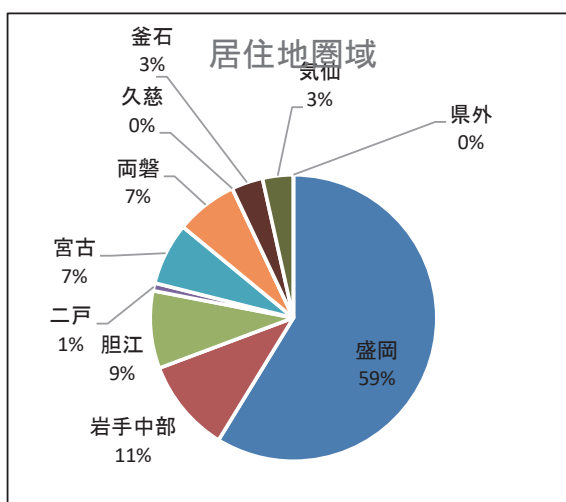
入院中：1名 (4%)

在宅：113名 (96%)



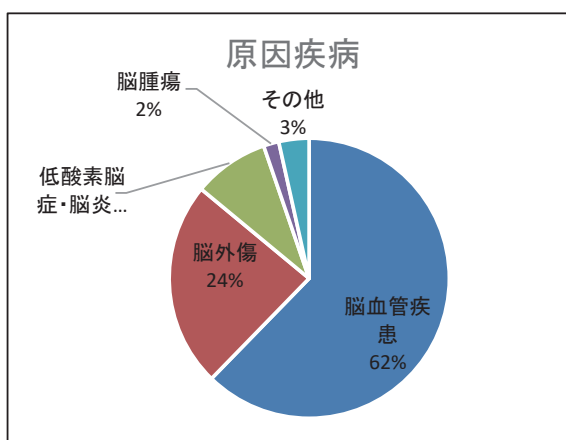
(4) 居住地圏域

盛岡	: 67名 (59%)
岩手中部	: 12名 (11%)
胆江	: 10名 (9%)
二戸	: 1名 (1%)
宮古	: 8名 (7%)
両磐	: 8名 (7%)
久慈	: 0名 (0%)
釜石	: 4名 (3%)
気仙	: 4名 (3%)
県外	: 0名 (0%)



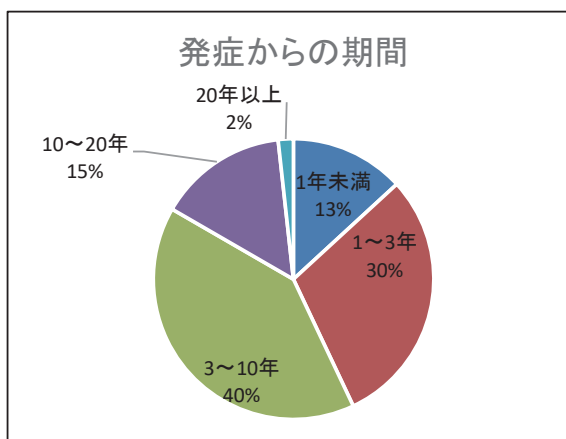
(5) 原因傷病

脳血管疾患	: 71名 (62%)
脳外傷	: 27名 (24%)
低酸素脳症・脳炎	: 10名 (9%)
脳腫瘍	: 2名 (2%)
その他	: 4名 (3%)



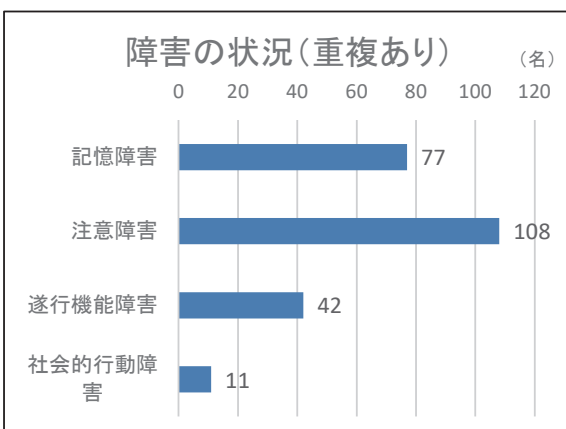
(6) 発症からの期間

1年未満	: 15名 (13%)
1～3年	: 34名 (30%)
3～10年	: 46名 (40%)
10～20年	: 17名 (15%)
20年以上	: 2名 (2%)



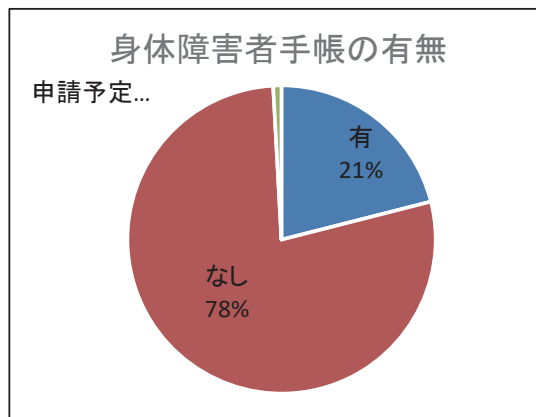
(7) 障害の状況（重複あり）

記憶障害	: 77名
注意障害	: 108名
遂行機能障害	: 42名
社会的行動障害	: 11名



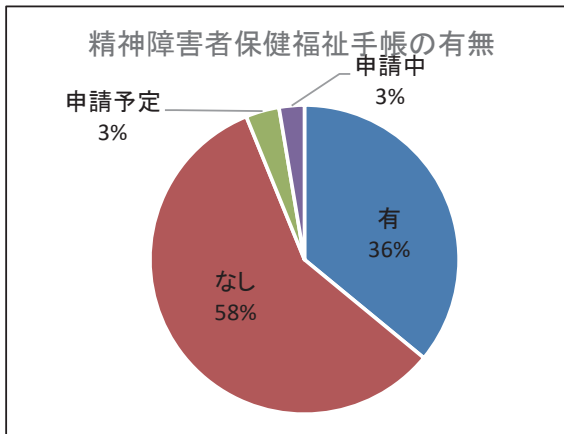
(8) 身体障害者手帳の有無

有 : 24名 (21%)
 なし : 89名 (78%)
 申請予定 : 1名 (1%)



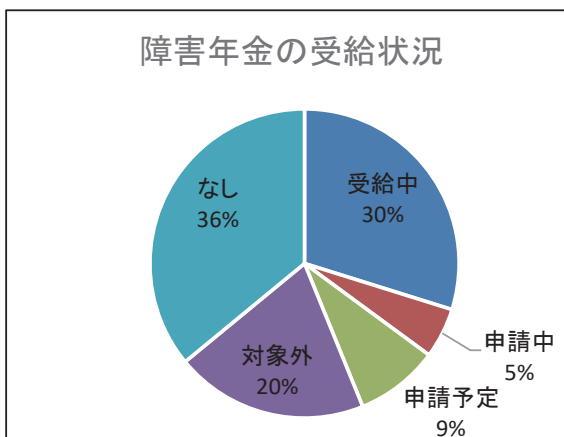
(9) 精神保健福祉手帳の有無

有 : 41名 (36%)
 なし : 66名 (58%)
 申請予定 : 4名 (3%)
 申請中 : 3名 (3%)



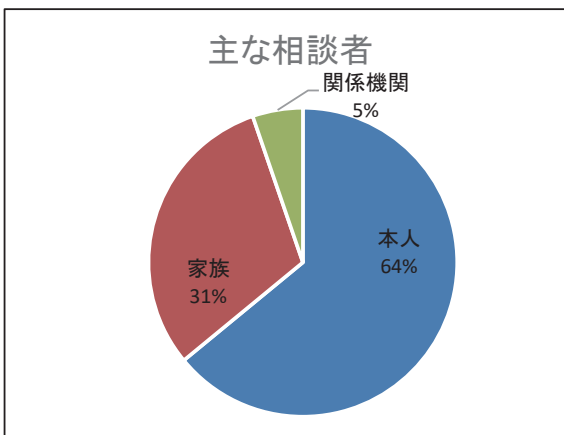
(10) 障害年金の受給状況

受給中 : 34名 (30%)
 申請中 : 6名 (5%)
 申請予定 : 10名 (9%)
 対象外 : 23名 (20%)
 (対象外内訳: 未成年、受給資格なし)
 なし : 41名 (36%)
 (なし内訳: 希望無し、老齢年金受給中)



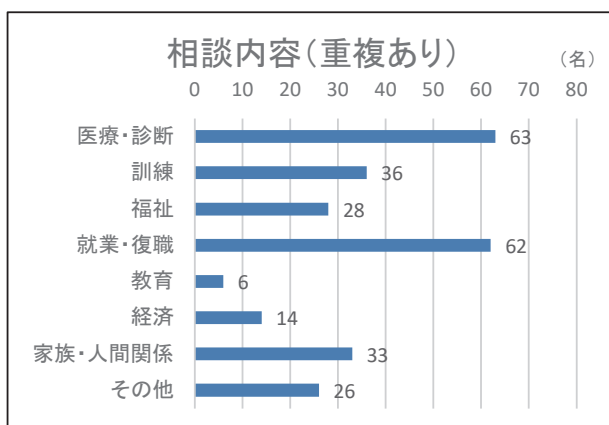
3 主な相談者

本人 : 73名 (64%)
 家族 : 35名 (31%)
 関係機関 : 6名 (5%)



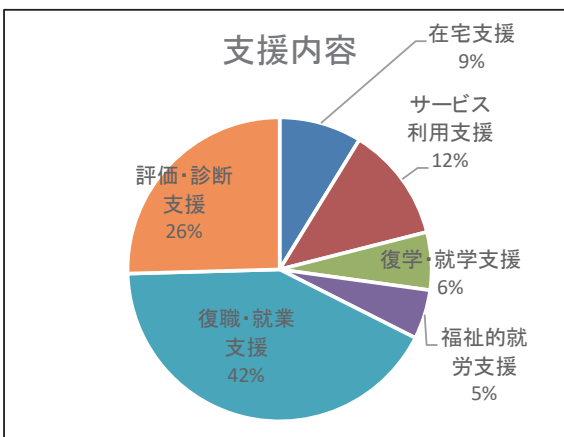
4 相談内容（重複）

医療・診断	: 63名
訓練	: 36名
福祉	: 28名
就業・復職	: 62名
教育	: 6名
経済	: 14名
家族・人間関係	: 33名
その他	: 26名



5 支援内容

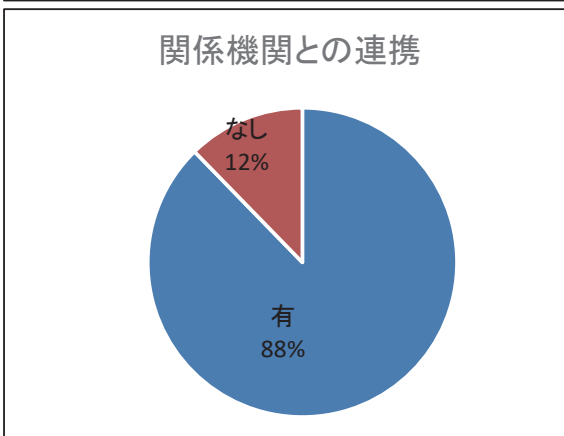
在宅支援	: 10名 (9%)
サービス利用支援	: 14名 (12%)
復学・就学支援	: 7名 (6%)
福祉的就労支援	: 6名 (5%)
復職・就業支援	: 48名 (42%)
評価診断支援	: 29名 (26%)



6 関係機関との連携

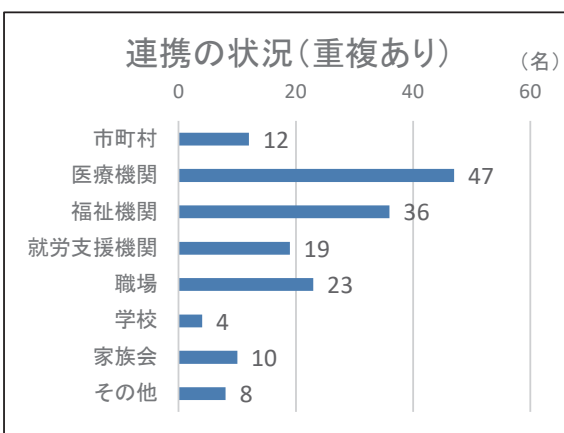
(1) 連携の有無

有	: 100名 (88%)
なし	: 14名 (12%)



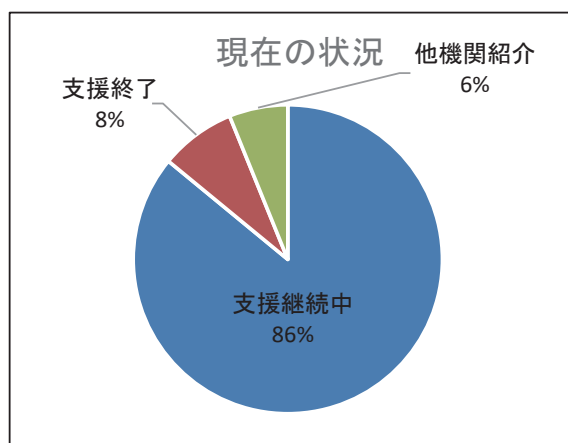
(2) 連携の状況（重複）

市町村	: 12名
医療機関	: 47名
福祉機関	: 36名
就労支援機関	: 19名
職場	: 23名
学校	: 4名
家族会	: 10名
その他	: 8名



7 現在の状況

支援継続中：98名（86%）
 支援終了：9名（8%）
 他機関紹介：7名（6%）



8 支援の結果

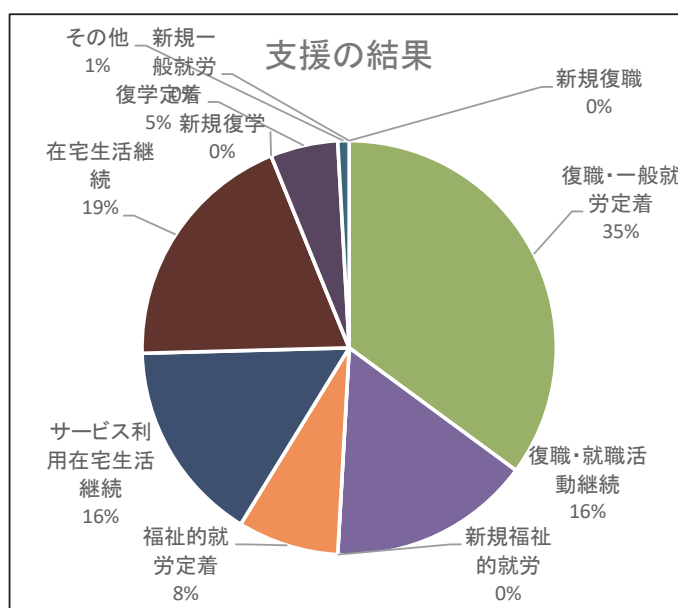
新規一般就労：0名 小計58名
 新規復職：0名
 復職・就労定着：40名
 復職・就職活動継続：18名

新規福祉的就労：0名 小計9名
 福祉的就労定着：9名

サービス利用
 在宅生活継続：18名 小計40名
 在宅生活継続：22名

新規復学：0名 小計8名
 復学定着：6名

その他：1名



9 相談支援例

- ・当センター入院中からコーディネーターが介入し、在宅サービスの調整や職場復帰に向けて職場担当者や障害者職業センターと連携したケース
- ・医療機関から高次脳機能評価や自動車運転評価の依頼があり関わったケース
- ・復学や就労の定着に向けて、他の医療機関や地域支援拠点機関等と連携したケース
- ・患者、家族から相談を受け、家族会へ相談同行しているケース

10 その他

自動車運転評価の相談を受けたケース(実人数)

令和元年度	6件
令和2年度	20件
令和3年度	26件
令和4年度	30件
令和5年度	22件
令和6年度	11件

令和6年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業収支精算書

収入

単位:円

科 目	予算額	精算額	差 額	摘 要
1 委託料収入	3,329,590	3,329,590	0	岩手県
2 自己資金	0	0	0	
合 計	3,329,590	3,329,590	0	

支出

単位:円

項 目	予算額	精算額	差 額	摘 要
1 人件費支出	1,295,000	839,451	455,549	担当職員分人件費
2 諸謝金	438,000	481,935	△ 43,935	委員及び講師等報償費
3 旅費交通費	135,000	166,280	△ 31,280	
4 印刷製本費	552,000	678,446	△ 126,446	事業報告書等の印刷代等
5 通信運搬費	362,000	428,443	△ 66,443	HP更新及びオンライン研修の配信経費等
6 会議費	39,900	169,550	△ 129,650	交流会等の飲食費等
7 賃借料	205,000	262,795	△ 57,795	研修会及び交流会の会場借用費等
8 租税公課	302,690	302,690	0	消費税
合 計	3,329,590	3,329,590	0	

令和6年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備業「県の支援拠点機関による地域支援」収支精算書

収入の部

単位:円

科 目	予算額	精算額	差 額	摘 要
1 委託料収入	5,915,976	5,915,976	0	岩手県
2 自己資金	0	0	0	
合 計	5,915,976	5,915,976	0	

支出の部

単位:円

項 目	予算額	精算額	差 額	摘 要
1 人件費支出	3,400,000	3,593,669	△ 193,669	職員分人件費
2 諸謝金	50,000	24,000	26,000	
3 旅費交通費	548,000	498,451	49,549	支援コーディネーター等の研修旅費
4 印刷製本費	775,000	551,100	223,900	支援ガイド、高次脳機能障がいカルタ作成経費等
5 通信運搬費	207,200	209,430	△ 2,230	ホームページの改修費用等
6 賃借料	394,000	490,510	△ 96,510	公用車及びパソコンリース料等
7 会議費	3,960	11,000	△ 7,040	
8 租税公課	537,816	537,816	0	消費税
合 計	5,915,976	5,915,976	0	

4 会議・研修会・イベント実績

● 会議

開催日	会 議 名	参加者数	備考
令和6年 9月3日	第1回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	26名	集合
令和6年 11月7日	圏域相談支援コーディネーター会議	12名	集合
令和7年 3月26日	第2回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	23名	集合

● イベント

令和6年11月9日アイーナにて開催のいわてリハビリテーションフォーラムで
高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行った。

● 研修会

日	研修会名	講師・報告者	参加者数
令和6年 10月6日	地域支援拠点機関との合同研修会 ①講義 高次脳機能障害の基本的理解とチームアプローチ ②事例を基にした意見交換	①講義 いわてリハビリテーションセンター 医療連携部副部長 上田 大介 主任臨床心理士 吉田 賢史 ②事例を基にした意見交換 ・障がい者地域相談支援センターふれあい 相談支援専門員 齊藤 武晴氏 NPO法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ 代表 堀間 幸子氏 ピアサポーター 澤野 恵子氏	43名
令和6年 11月7日	圏域相談支援コーディネーター研修会 【グループワーク】 テーマ：高次脳機能障がい者支援普及事業に関する地域課題と今後の取り組みについて		9名
令和7年 ①1月21日(集合) ②2月4日～2月25日 (オンデマンド配信)	高次脳機能障がい者支援研修会 (医師及びコメディカル対象) 【テーマ】 脳卒中後の治療と仕事の両立支援	中国労災病院治療就労両立支援センター 所長 豊田 章宏 先生	①②合わせて 104名
令和7年 1月17日	高次脳機能障がい支援研修 (医療・福祉・行政関係対象等支援者) ・講義1「高次脳機能障害の特徴と必要な支援について」 ・講義2「当事者と家族が語る入院中・退院後の生活・就労について」 ・グループワーク 事例をもとに「高次脳機能障害」と必要と考えられる支援について検討する	【講義1】 栃内第二病院 リハビリテーション部 副部長 公認心理士 山館圭子氏 【講義2】 NPO法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ ピアサポーター 菊地純也氏 ピアカウンセラー 阿部徳乃氏 【グループワーク】 栃内第二病院 リハビリテーション部 副部長 公認心理士 山館圭子氏	33名

● イベント

日	イベント名	プログラム	参加者数
令和6年 9月22日	じゃじゃじゃ交流会2024in北上	【第1部 13:00-14:00】 鬼剣舞鑑賞(北上翔南高校鬼剣舞部) 当事者の作品紹介 他団体の活動紹介 注文のやんべな料理店プロジェクト 北上笑いのたね事業所 【第2部 14:15-15:45】 スクラッチアート/アロマを使用した物作り 展示ブースをまわるスタンプラリー	当事者27名 家族16名 支援者47名 一般53名
令和6年4月～ 令和7年3月	高次脳機能障がい当事者のための オンラインサロン(zoom)	毎月第4土曜日10:30-12:00に実施	当事者77名 (延べ人数)

令和 6 年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業
圏域相談支援コーディネーター会議及び研修会開催要綱

1 目的

高次脳機能障害の多くは外見からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、家族からも理解されにくい状況にあります。また、社会生活上様々な支障が生じていても、身体機能に障害がない場合は、社会的な支援を受けにくい状況にあります。

本会議及び研修会は高次脳機能障がい者を支援する地域支援拠点機関のコーディネーターを対象に、支援体制の構築および推進を図ることを目的に開催します。

2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和 6 年 11 月 7 日(木)

(1) 圏域相談支援コーディネーター会議：10：30～12：00

(2) 圏域相談支援コーディネーター研修会：13：00～15：00

4 場所

エスポワールいわて 1 階 小会議室 盛岡市中央通り 1 丁目 1-38 Tel:019-623-6251

5 対象

圏域相談支援コーディネーター

6 内容

(1) 圏域相談支援コーディネーター会議 10：30 ～12：00

内容：令和 5 年度事業報告及び令和 6 年度事業計画について

報告者：岩手県保健福祉部障がい保健福祉課

いわてリハビリテーションセンター

地域支援拠点機関(8 圏域 9 機関)

(2) 圏域相談支援コーディネーター研修会 13：00 ～15：00

内容：地域の実情に合わせた高次脳機能障がい者の支援体制に関する意見交換

相談対応、研修企画、サロン活動など可能な範囲で取り組める方法を話し合う。

**令和 6 年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業
高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）開催要綱**

1 目的

「気付きにくい、気付かれにくい、見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある医師及び医療従事者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 共催

いわてリハビリテーションセンター

岩手医科大学附属病院脳卒中・心臓病総合支援センター

3 後援

岩手県医師会 / 岩手県脳卒中予防県民会議 / 日本脳卒中協会岩手県支部 /
岩手産業保健総合支援センター / 岩手高次脳機能障害研究会

4 期日

(1) 会場開催：令和 7 年 1 月 21 日(火) 19：00～20：50

エスポワールいわて 3 階特別ホール（定員 30 名）

(2) オンデマンド配信：令和 7 年 2 月 3 日(月)～2 月 16 日(日)

※会場と両方の参加も可能です。会場とオンデマンドは同じ内容となります。

5 対象

県内の脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の医師及びコメディカル

※両立支援に関心のある各専門職の皆様もお申し込み可能です。

6 内容

講演：「脳卒中後の治療と就労の両立支援」

講師：中国労災病院 治療就労両立支援センター 所長 豊田 章宏 先生

座長：岩手医科大学 学長 小笠原 邦昭 先生

7 参加経費

無料

8 申込方法等(締め切り：令和 7 年 1 月 10 日)

参加希望の方は裏面「申し込み方法」を確認のうえ、メール又は QR コードから申し込みをお願いします。

9 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：上田・後藤〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807 MAIL：koujinou-shien-reha@irc.or.jp

令和6年度 岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）アンケート結果

開催日(集合研修)：令和7年1月21日（火）

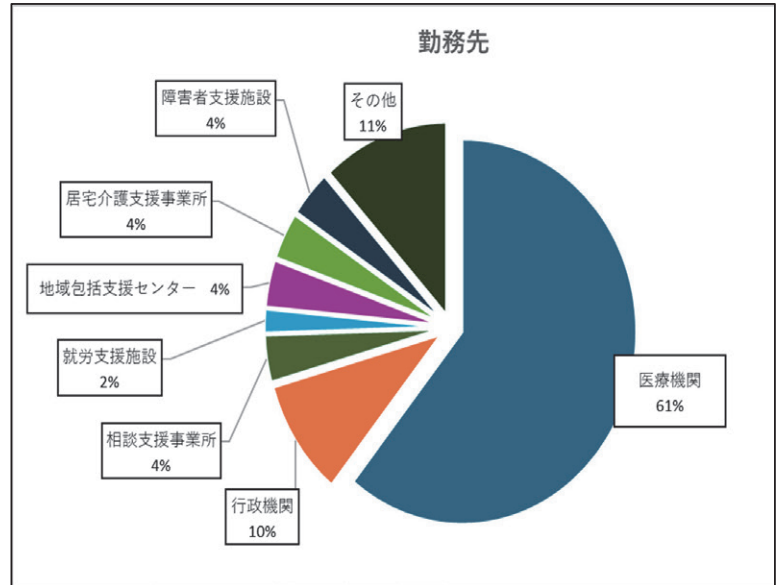
会場：エスポワールいわて 3階 特別会議室

オンデマンド配信：令和7年2月4日～2月25日

回答数：51 回収率：49.5%

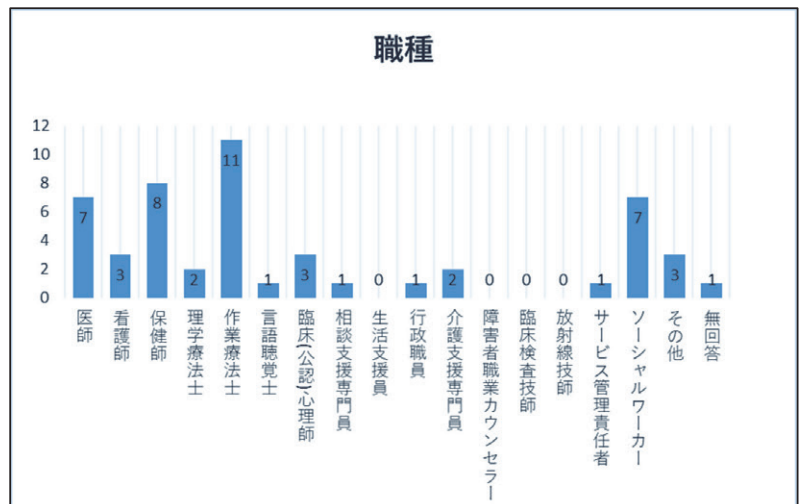
1. 属性－勤務先

勤務先	回答数
医療機関	31
行政機関	5
相談支援事業所	2
就労支援施設	1
地域包括支援センター	2
居宅介護支援事業所	2
障害者支援施設	2
障害者職業センター	0
その他	6
合計	51



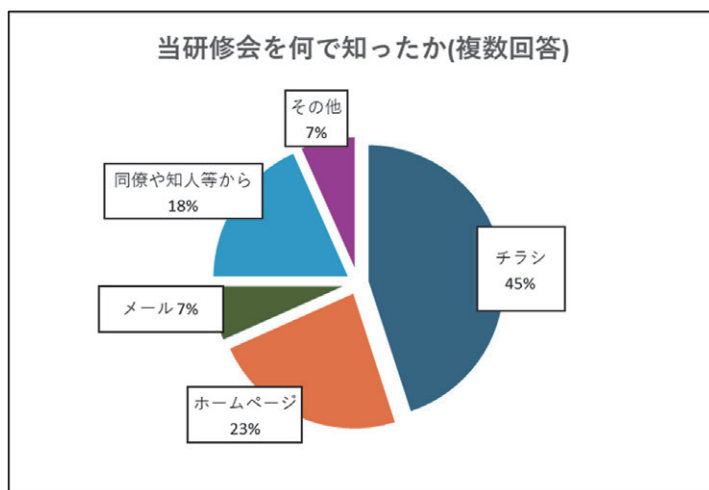
1. 属性－職種

職種	回答数
医師	7
看護師	3
保健師	8
理学療法士	2
作業療法士	11
言語聴覚士	1
臨床(公認)心理師	3
相談支援専門員	1
生活支援員	0
行政職員	1
介護支援専門員	2
障害者職業カウンセラー	0
臨床検査技師	0
放射線技師	0
サービス管理責任者	1
ソーシャルワーカー	7
その他	3
無回答	1
合計	51



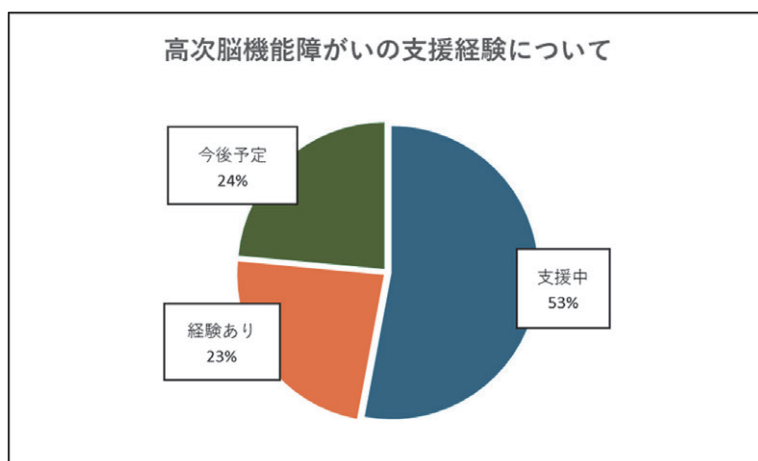
2. 当研修会を何で知りましたか(複数回答可)

当研修会を何で知りましたか	回答数
研修案内チラシ	27
いわてリハビリテーションセンターや各機関のホームページ	14
主催者からのメール	4
職場の同僚や知人等から	11
その他	4
合計	60



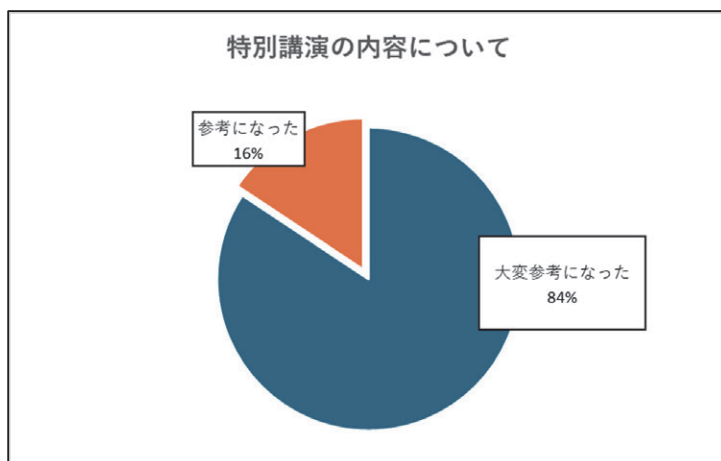
3. 高次脳機能障がいへの支援経験について

高次脳機能障がいへの支援経験について	回答数
現在、実際に支援に関わっている	27
現在関わっていないが、支援に関わったことがある	12
これまでに支援に関わったことはないが、今後支援に関わるつもりである	12
これまで支援に関わったことはなく、今後もかかわるつもりはない	0
合計	51



4. 特別講演の内容について

特別講演の内容について	回答数
大変参考になった	43
参考になった	8
普通	0
あまり参考にならなかった	0
合計	51

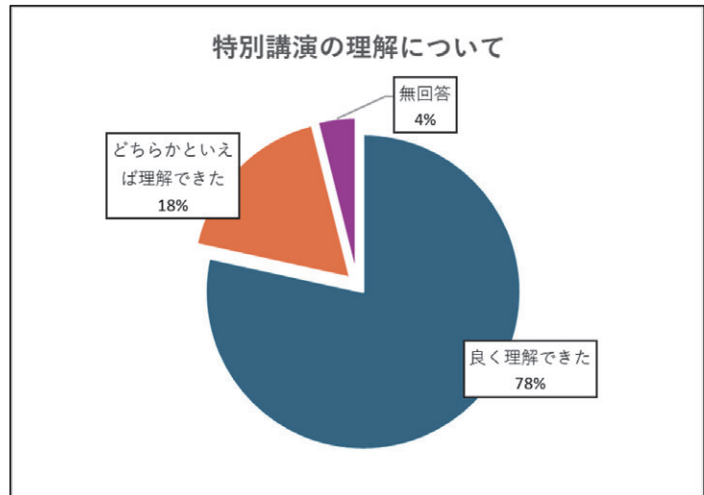


意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと等

- ・両立支援の重要性は把握しているが、実際に関わった事が無かったので、具体的な方法を聞くことができて、とても参考になりました。
- ・がんなどの他の疾患についても参考になることがたくさんあった。とても勉強になりました。
- ・両立支援の具体的な実際は急性期スタッフには、なかなかなじみがないのでもう少し知りたい。
- ・職場の情報を詳しく理解する事の大切さを感じた。一方でタイミングや確認の仕方など考える上で何を大切にするべきか、もっと知りたい、考えていきたいと感じた。
- ・医療機関、職場、家族からの見え方の違い。企業文化を知る事の重要性。
- ・実際の実例の報告会を聞きたい。高齢者の両立支援について。
- ・相談できる場や、方法が分からなかったため大変参考になりました。ピアサポートの存在も初めて知りました。岩手でも増えてほしいと感じます。また、社会復帰される方へ様々なサポートがあることを伝えながらリハビリ職として支援していきたいと思いました。
- ・退院後の当事者のことを良く理解して頂いてとても安心しました。
- ・大変勉強になりました。医療例、企業例の考え方の違い等のお話が聞けて良かったです。とても勉強になりました。
- ・医療側と企業側での考え方の違いについての説明がとても印象に残りました。視点が違うことで働きたい人がうまく働けないことがないように今後の関わりを考えていきたいと思います。
- ・私自身、これまでに介護保険制度上での就労支援に関わることがありました。就労という枠組みにおいても、就労している方が継続雇用して頂ける社会が望ましいですが、継続雇用が困難な場合は新たに一般雇用や障がい者雇用、就労継続支援 A・B 型などからの選択が必要となります。介護保険制度を利用している上で、本人や家族が主体的に動く必要があるのか、ケアマネジャーやリハ職などの関わっている職種が主体となって進めていくことが望ましいのか判断に迷う点がありました。こういった場合、就労連携といった点で、どのような連携していく事が望ましいのか聞くことが出来ればと思いました。
- ・具体的なケースについて
- ・両立支援が始まった社会的状況から、社会をあげて取り組む必要があるものと実感できた。
- ・両立支援について、①医療機関及び職場側の更なる周知・理解と治療と就労の両立支援とのことで、テーマとずれるかもしれませんが、地域との連携の仕方であれば知りたかったです。
- ・医療機関と職場の言ってはいけない言葉のスライドとても心に刺さりました。
- ・実践例を伺いたかったです。企業側の両立支援に関する意見等
- ・高次脳機能障害がある方への両立支援
- ・大変有意義な研修でした。大事なことは、先生がお話されていたように「自立の第一歩は手をあげ助けを求められること」だと思います。そのためには、治療と仕事の両立支援の知識、相談窓口の普及、促進に力を注ぐ必要があると思いました。
- ・日本では「周囲の迷惑かけない」ことが美德とされて病気になったら復職だけでなく何かをあきらめてしまうことが多いように思います。周囲の同調圧力や自分自身の諦めや億劫感に負けないで自分らしく生きていくために、MSW の退院支援の重要性、また繋がれたケアマネジャーの役割の重要性を再認識いたしました。
- ・シームレスに、寄り添って、という大切さを学びました。

5. 特別講演の理解について

特別講演の理解について	回答数
良く理解できた	40
どちらかといえば理解できた	9
どちらかといえば理解できなかった	0
ほとんど理解できなかった	0
無回答	2
合計	51

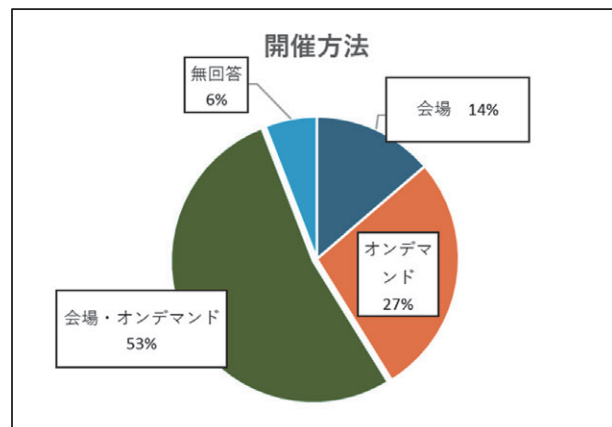


6. 今後の高次脳機能障がい研修会に対する要望について

- ・ 感想、脳卒中ピアサポート事業とのコラボ。
- ・ 多職種連携について。
- ・ 事例をお聞きしたいと思いました。
- ・ 岩手県での脳卒中患者が、具体的にどんな職場、職種に復職されているか知りたい。
- ・ 医師の皆さんに当事者、ご家族の話を講演と聞くような研修があると良いと思います。
- ・ 雪が降る前に研修を実施していただけるとアクセスしやすいです。
- ・ 在宅生活での支援の方法について
- ・ 実際に回復期から退院にあたって産業医や障害者就業・生活支援センターとどのように連携したのか、退院後に高次脳機能障害での復職が難しいと発覚したときにどのようにサポートしたのか事例があれば聞いて自分たちの実践の参考にしたい。
- ・ 両立支援について、①医療機関及び職場に対しての更なる周知・理解、②当事者と家族に、復職を意識して訓練に取り組めるよう両立支援を視野に入れたりハ計画を早期に提示できるような仕組みを期待する。
- ・ 実際の支援をしている方のお話が聞きたいです。
- ・ 高次脳機能障害の発症から日常生活復帰とその後の患者さんに現れる症状の変遷を改めてご講義頂けるとありがたいです。
- ・ 今後も定期的に研修会を開催していただきたい。
- ・ 若年者（20代～50代）の社会参加の実態。

7. どんな方法だと研修会に参加しやすいですか

どの開催方法だと研修に参加しやすいですか？	回答数
会場	7
オンデマンド	14
会場・オンデマンド	27
無回答	3
合計	51



**令和 6 年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業
高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）開催要綱**

1 目的

「気付かれにくい障害、気付きにくい障害、見えにくい障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある地域の支援者を対象に開催します。高次脳機能障がい者の支援はライフステージの変化や症状の変化等に伴い、一つの機関だけで完結しないケースが多く、長期間、複数の機関で支援することが望ましいと考えられています。それぞれの支援者が専門性を発揮し何ができるのかを考え、今後の支援に活かせることを目的としています。

尚、本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

3 日時

令和 7 年 1 月 17 日（金）13：00～16：00 受付は 12:00～開始

4 会場

いわて県民情報交流センター(アイーナ)8 階 会議室 803

5 対象

県内の病院、福祉施設、相談支援事業所、市町村職員等

6 内容

テーマ：「高次脳機能障害」入院～生活期に必要な支援とは

第 1 部 講義

1. 「高次脳機能障害の特徴と必要な支援について」

講師：栃内第二病院リハビリテーション部副部長 公認心理師 山舘圭子氏

2. 当事者と家族が語る「入院中・退院後の生活・就労について」

講師：NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ

ピアサポーター 菊地 純也 氏

ピアカウンセラー 阿部 徳乃 氏

第 2 部 グループワーク「事例検討」

事例をもとにそれぞれの支援者が専門性を発揮し、何ができるのかを検討します。

7 参加費

無料

8 参加申込み

裏面の申し込み用紙をご確認いただき、必要事項を記載の上でメール又は QR コードからお申込みください。※申し込み期限令和 7 年 1 月 10 日(金)

9 備考

- ・本研修受講前に、国立障害者リハビリテーションセンターで作成した「高次脳機能障害支援者養成研修（動画、テキスト、シラバス）」の基礎編「講義 01 高次脳機能障害とは(18 分 28 秒)」の動画をご視聴ください。 <https://vimeo.com/838222451/2da9c16b55>
- ・尚、本研修は高次脳機能障害者支援体制加算を取得するための研修には該当しません。加算取得要件を満たす養成研修は令和 7 年度に実施できるよう岩手県と協議中です。詳細が決まり次第ご案内いたします。

お問い合わせ

いわてリハビリテーションセンター 総合相談科 〈 担当：上田・後藤 〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807 MAIL：koujinou-shien-reha@irc.or.jp

令和6年度 岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）アンケート結果

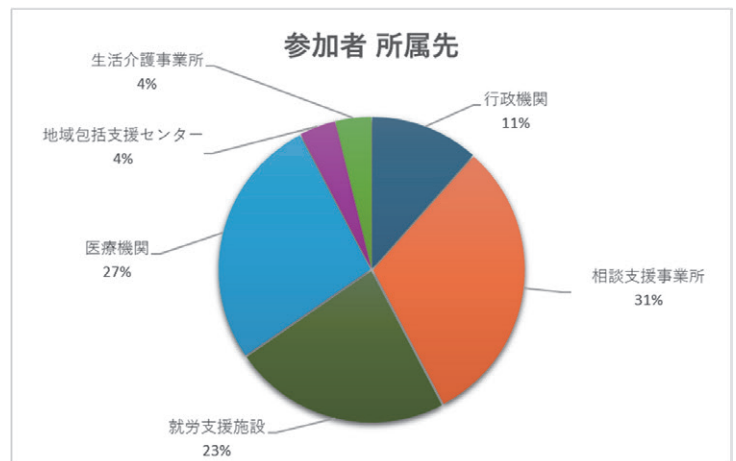
開催日：令和7年1月17日（金）13：00-16：00

会場：いわて県民情報交流センター8階 会議室 803

回答数：26

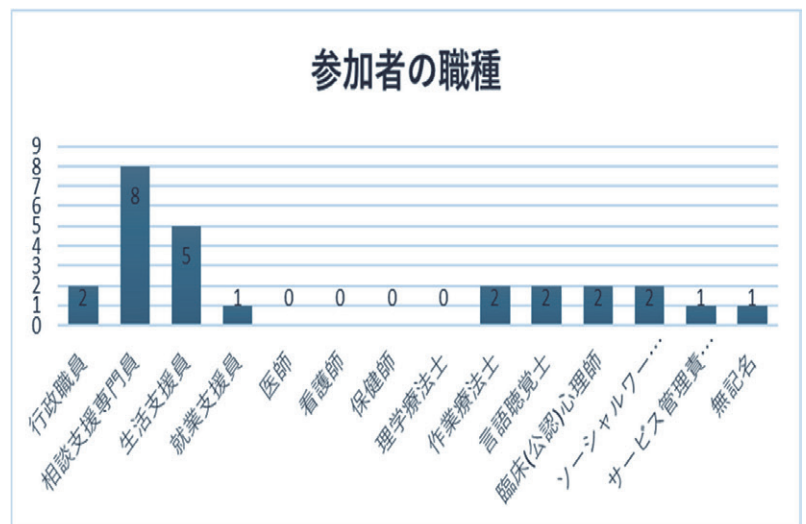
1. 参加者の所属先

所属先	回答数
行政機関	3
相談支援事業所	8
就労支援施設	6
医療機関	7
地域包括支援センター	1
生活介護事業所	1
合計	26



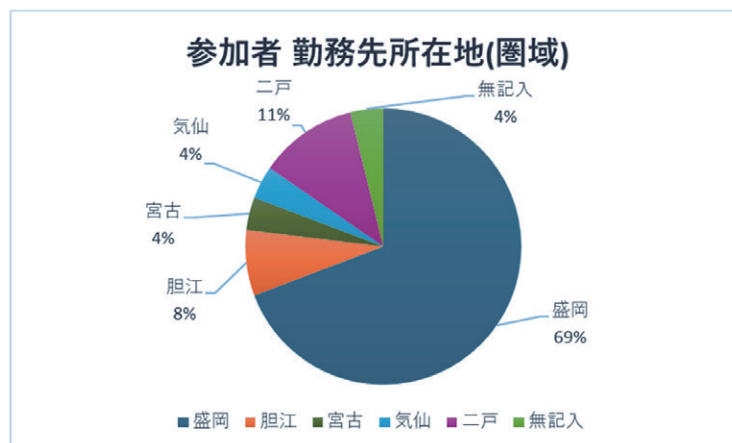
2. 参加者の職種

職種	回答数
行政職員	2
相談支援専門員	8
生活支援員	5
就業支援員	1
医師	0
看護師	0
保健師	0
理学療法士	0
作業療法士	2
言語聴覚士	2
臨床心理士・公認心理師	2
ソーシャルワーカー	2
サービス管理責任者	1
その他	0
無記名	1
合計	26



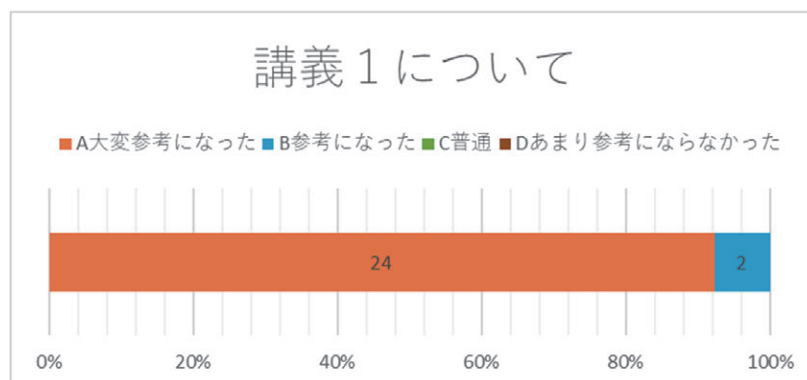
3. 参加者の勤務先所在地

圏域	回答数
盛岡	18
胆江	2
宮古	1
気仙	1
二戸	3
無記入	1
合計	26



4. 講義1「高次脳機能障がいの特徴と必要な支援について」

講義1について	回答数
大いに参考になった	24
参考になった	2
普通	0
参考にならなかった	0
合計	26



5. 講義1について、意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと

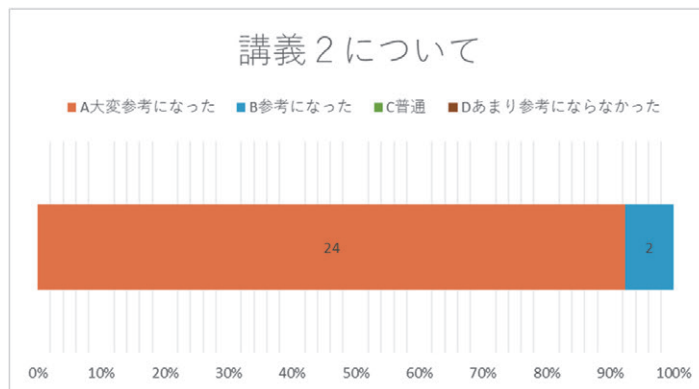
- ・ピアサポーターの説明をもとに分かりやすく理解することができました。
- ・初めて知ることが多くこれからの支援、関わりに参考になります。
- ・利用者の方で高次脳機能障害の方がいらっしゃるためその方への支援へ大変参考になりました。
- ・分かりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・再確認できた。
- ・高次脳機能障害の気付きについてはこれまで何度かお聞きしてきましたが、改めて時間を要する支援だなと思いました。実際どのように知的な気付きを促しているのか取り組みなど教えていただきたい。
- ・必要な支援が理解できた。
- ・当事者の実体験を伺うことができて非常に勉強になりました。
- ・高次脳機能障害の具体的な症状も知ることができて良かったです。
- ・回復期における役割や今後(退院後)の生活に向けて行っていかなければならない事を再認識できました。
- ・高次脳機能障害について今まで学ぶ機会がなく講義を受けれてとても学びになりました。先生の話し

方がとても聞きやすかったです。

- ・当事者さんの話は毎回気付きをいただきます。ありがとうございました。
- ・地域に帰ってから大変なことがたくさんあるとあらためて実感しました。
- ・臨床場面でリンクすることが多く非常にわかりやすかったです。

6. 講義2 当事者と家族が語る「入院中・退院後の生活・就労について」

講義2について	回答数
大いに参考になった	24
参考になった	2
普通	0
参考にならなかった	0
合計	26



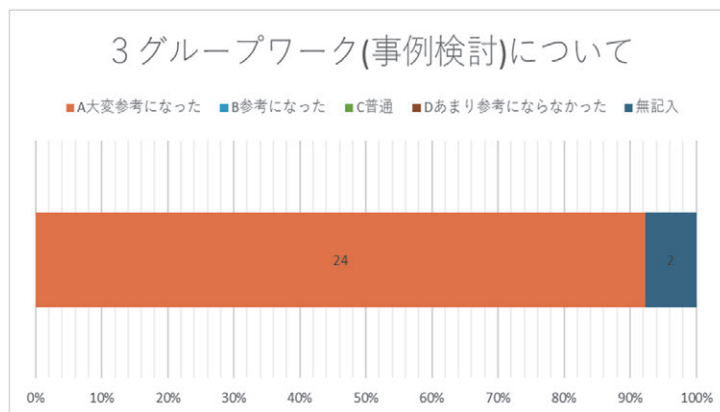
7. 講義2について、意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと

- ・どのような思いを持っているか知ることができ貴重な機会となった。
- ・ご本人、ご家族の思いがリアルで自分にできることが果たしてあるのか…と深く考える時間となりました。
- ・貴重なお話をいただきありがとうございました。
- ・事業所を利用されている方も一般就労を目指しているので、よりお力になりたいという思いが強くなりました。貴重なお話が聞けてとても充実した時間になりました。
- ・実体験に勝るものなし。よろしければ色々な方のお話を聞きたいです。
- ・当事者と家族についての気持ちをうかがえました。
- ・体験的な気付きの経過を当事者の方、家族の方から聞ける貴重な会でした。普段は気付きを促すような立場でどのようにしたら良いかを日々考えながら今日のお話を楽しみにしていました。
- ・生の声を聞くことができてよかった。
- ・入院から退院後に向けて回復していく部分と回復しない部分があらい、アセスメントの重要性を感じました。
- ・当事者、ご家族がその当時どのような思いで過ごしていたか、やはり直接伺うと第三者ではなかなか気付けられない面があると思いました。
- ・当事者の意見を聞ける機会はなかなかないので参加して良かった。
- ・改めて高次脳機能障がい見えにくさを知ることができました。家族への退院後のアドバイスの参考になりました。
- ・当事者、家族の想いを経過毎に語ってくださり揺れ動く気持ちや双方のすれ違い、気付きに対する葛藤がリアルに感じる事が出来た。

- ・当事者、家族が話す内容がとても考えさせられる内容で周りにいる当事者様を思い出して聞いていました。このような機会をとって頂ありがとうございました。
- ・担当している方のご家族への対応に役立てていきたいと思います。
- ・当事者、家族、普段聞けない内容を聞くことができました。
- ・当事者、ご家族それぞれの当時の想いが切実に伝わり、大変参考になりました。
- ・なかなか当事者さんの話を聞く機会がないので聞けて良かったです。

8. グループワーク(事例検討)

講義3について	回答数
大いに参考になった	24
参考になった	0
普通	0
参考にならなかった	0
無記入	2
合計	26



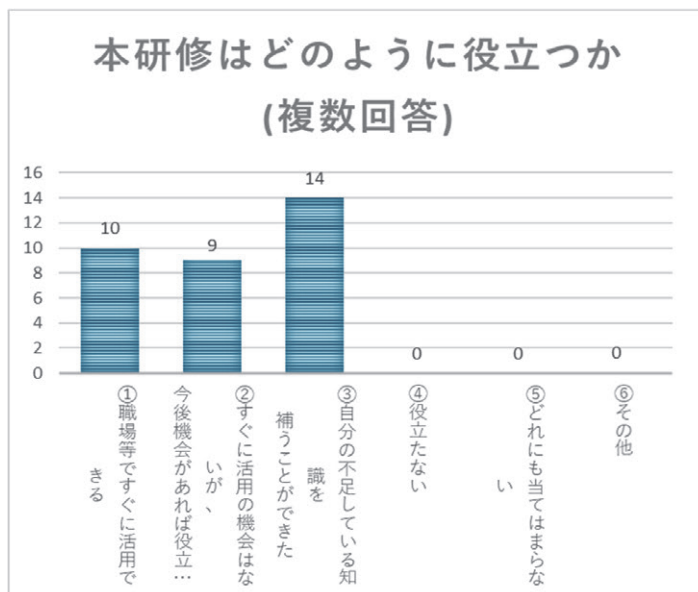
9. 事例検討について、意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと

- ・様々な視点の意見が聞けて良かった。
- ・他機関との話し合いが凄く参考になった。考え方、捉え方の学びになりました。
- ・多職種での話し合いで新たな視点を得ることができました。
- ・自分では考えのつかないアイデアがたくさんあり参考になりました。
- ・業種の違う者でグループディスカッションの機会を頂きとても良かったと思いました。
- ・支援について多様な意見を聞くことができて普段の対応に関して枠が広がったような気がしました。
- ・色々な意見はもちろんです、先生のまとめの話もとても参考になりました。
- ・新たな視点が得られて他職種の連携が重要だと分かった。
- ・色々な意見を聞くことができて良かったです。
- ・色々な立場の方の意見が聞くことができ勉強になりました。
- ・福祉サービス、医療など様々な方の意見を聞けてとても参考になり支援の幅が広がった。
- ・事例に対して様々な職種の方から意見が聞けて参考になりました。
- ・他分野の方々の視点で同じケースに向き合うことが出来て貴重な時間だった。
- ・色々な視点が出てとても勉強になりました。普段の現場では思いつかないこともありグループワークが楽しかったです。
- ・色々な考え、意見を聞くことが出来ました。とても参考になりました。
- ・退院後の変化に合わせて組み立てていくことの重要性に気付きました。
- ・医療の現場で考えつかない意見がたくさん出ていてとても勉強になりました。
- ・福祉分野の方と意見交換ができて大変勉強になった。

- ・どのように支援を組み立てていくかという部分がとても勉強になった。
- ・福祉関係の方との検討は色々な気付きがありとても参考になりました。今後に活かしていきたいと思ひます。
- ・普段高齢分野にいたため障がい分野の方の話を聞くことができ視野が広がりました。ありがとうございました。

10. 本研修はどのように役立ちましたか

8. 本研修はどのように役立ちましたか	回答数
職場ですぐに活用できる	10
すぐに活用の機会はないが、今後機会があれば役立つと思う	9
自分の不足している知識を補うことができた	14
役立たない	0
どれにも当てはまらない	0
その他	0



【その他】に記載があった内容

- ・自分達だけでは考えられない視点での見方を発見できた。教えられる事が多くあった。

11. 研修会を企画、テーマ、内容、講師、場所、時間等の要望などについて

- ・また早期に開催して欲しいです。他機関との話は勉強になります。本日はありがとうございました。
- ・自分たちだけでは考えられない視点での見方を発見できた。教えられることが多くあった。
- ・心理教育について
- ・当事者の方のお話を伺う機会があればぜひ聞いてみたいです。
- ・具体的にどのような支援を行っていけばよいのか事例があると今後の支援に役立てることができると思ひます。
- ・職場で運転シュミレータを導入しているため運転と高次脳機能障がいについての内容をお聞きしたいです。
- ・毎年定例化して研修を行って頂ければ高次脳機能障害の理解につながり、もっと色々な人達にも知って貰えればと思ひました。PMからの研修ではなく1日でも良いと思ひるので今後期待しています。
- ・雪の時季はちょっとしんどいです・・・。
- ・事例を通して症状を伝えて貰えるとイメージしやすく理解を深めやすいと思ひました。たのしい研修でした。ありがとうございました。
- ・就労支援に関する内容の研修を希望いたします。

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業
じゃじゃじゃ交流会 2024 in 北上 開催要綱

1 趣旨

脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血といった脳血管障害や、交通事故などによる脳外傷、脳炎、低酸素脳症などで脳を損傷し、怒りっぽくなった、物覚えが悪くなった、何かにこだわり過ぎるようになったなど、今までに見られなかった症状が現れることがあります。これを「高次脳機能障害」といいます。高次脳機能障がいの多くは外見からは分かりにくく、本人の自覚も乏しいため、支援者からも理解されにくい状況にあります。この交流会は広く多くの方々に高次脳機能障がいに関心を持ってもらうとともに、高次脳機能障がい当事者、家族、支援機関等との交流を図ることを目的に開催します。

2 主催

いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南地区、いわてリハビリテーションセンター

3 日時

令和6年9月22日（日）13：00～16：00 ※受付12：00開始

4 会場

北上市文化交流センター さくらホール ※無料駐車場680台有り
岩手県北上市さくら通り二丁目1番1号 TEL 0197-61-3300

5 定員

100名

6 プログラム ※状況に応じて内容等を変更する可能性があります。

・第1部(13:00-14:00)

鬼剣舞鑑賞（岩手県立北上翔南高等学校 鬼剣舞部）

当事者の作品紹介

注文のやんべな料理店プロジェクト、北上笑いのたね事業所 等

・第2部(14：15-15：45)

グループワーク ※事前申し込み必要

①スクラッチアート 講師：小原 隆規 氏

②アロマを使用した物作り 講師：株式会社 ソルド

展示ブース(当事者作品、各支援機関・団体の紹介)を見て回る ※自由参加

7 参加費

無料

8 参加対象

- ・高次脳機能障がい者及び家族
- ・医療、福祉、行政関係者等高次脳機能障がいの支援者及び県民

9 参加申込みについて

参加を希望する場合は、**9/6（金）までに**下記あてにメール又はFAX、電話にてお申し込み下さい。

〒020-0503 岩手県雫石町七ツ森 16 - 243 いわてリハビリテーションセンター 担当（上田・後藤）

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807 E-mail：koujinou-shien-reha@irc.or.jp

※お申し込み後に参加ができなくなった際には、9月20日（金）16時までに担当へご連絡ください。

じゃじゃじゃ交流会2024 アンケート結果

開催日時：令和6年9月22日（日）13：00～16：00 会場：北上市文化交流センター さくらホール

回収数：19

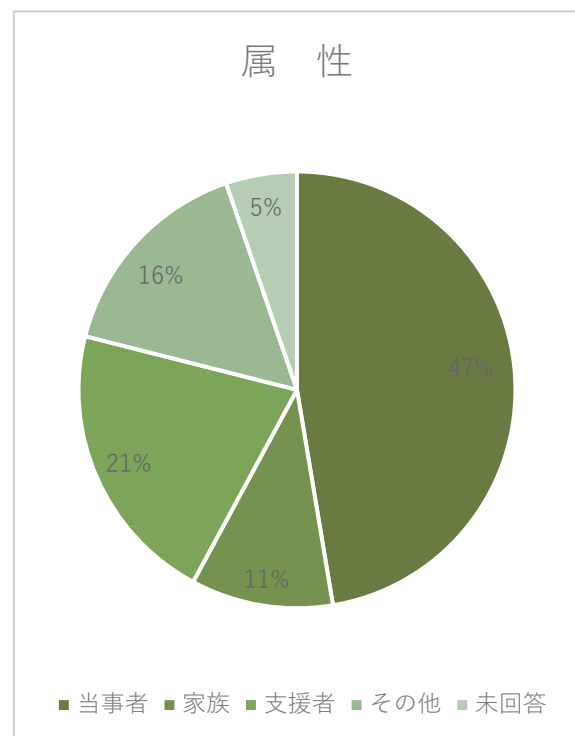
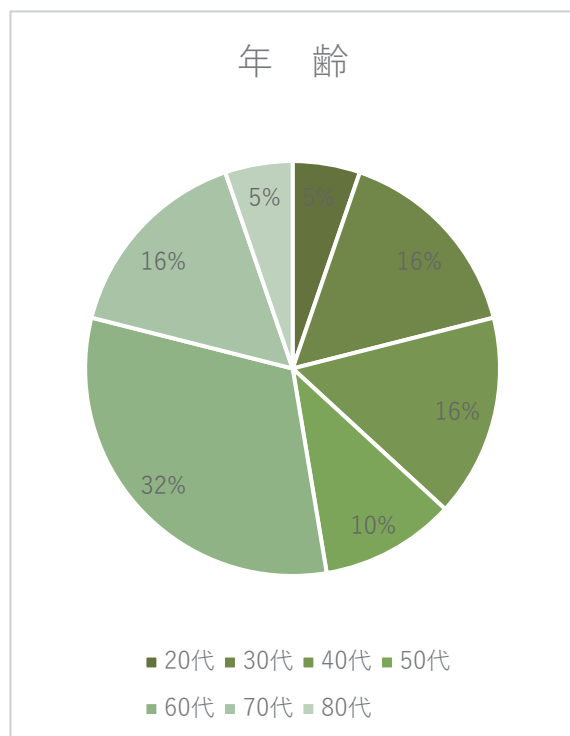
集 計 結 果

参加者の年齢

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
人 数	1	3	3	2	6	3	1

参加者の属性

	当事者	家族	支援者	その他	未回答
人 数	1	3	3	2	6



第1部感想（鬼剣舞鑑賞、当事者作品紹介、支援機関・団体の紹介）

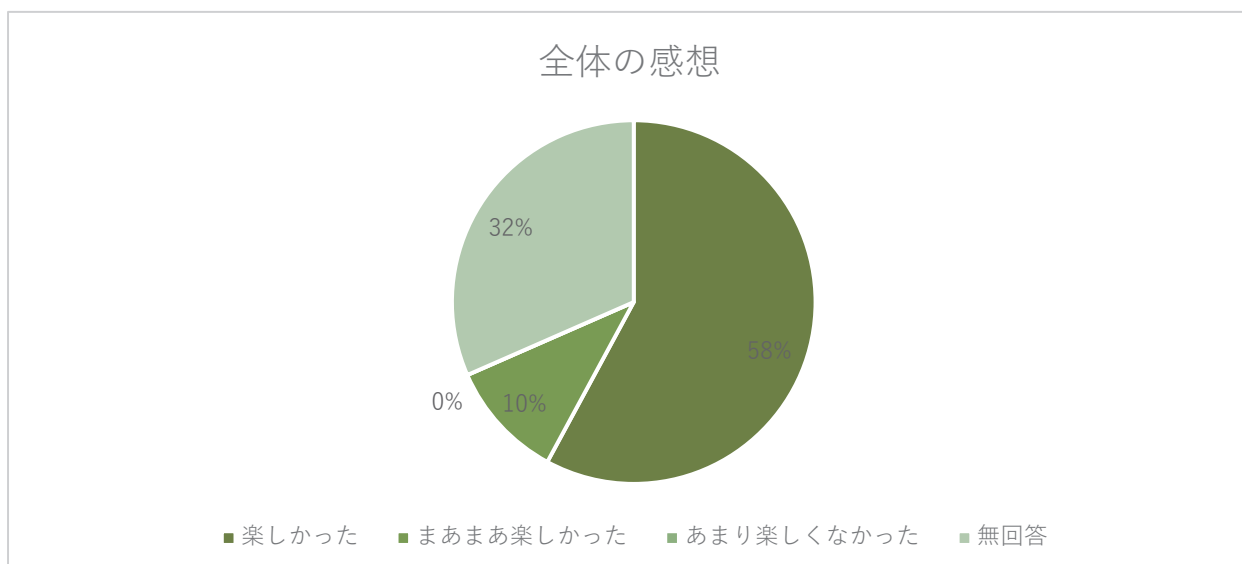
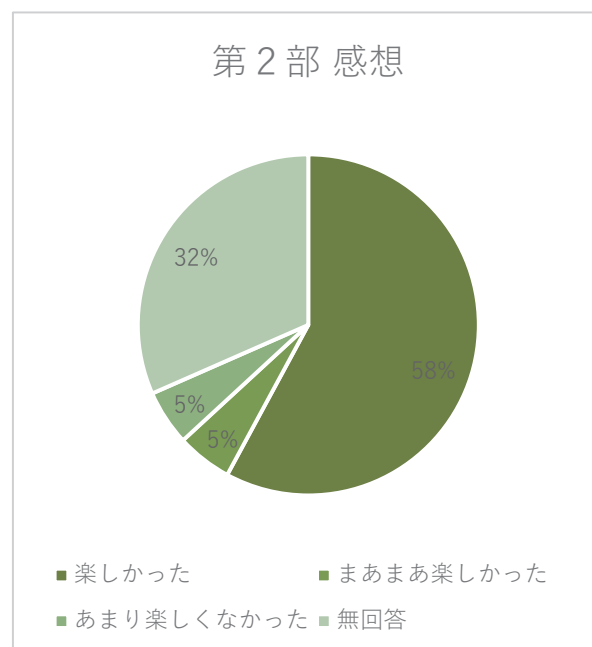
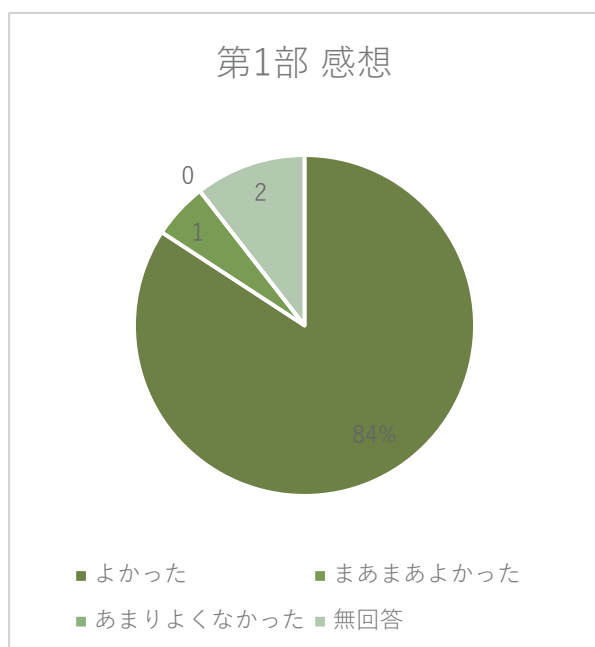
	よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	無回答
人 数	16	1	0	2

第2部感想（グループワーク、展示ブース、スタンプラリー）

	よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	無回答
人 数	11	1	1	6

交流会全体の感想

	よかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	無回答
人 数	11	2	0	6



<自由記述>

第1部への具体的な感想や印象に残った場面、改善点等について

- ・初めて鬼剣舞を生でみました。感動しました。なかなか見る機会がないので良かったです。
- ・迫力ある演舞で”カンゲキ”しました。おっかけになりそうです。
- ・初めてし翔南高校の演舞を拝見いたしました。数々の賞をいただいているだけの演出内容と感心しました。若い方々の力強い剣舞にも感動しました。会の始まりにふさわしかったと思います！
- ・おにけんばい、具体的説明をきいてから見られたので、今までの考え方見方が変わり、新せんでしたありがとう　そして、私たちの様な人、立場のステージをやってくれてありがとう
- ・皆さん頑張っているね。歌も声がとても美しく良かったです。
- ・若々しく清々しく躍動感あふれる剣舞にとっても素晴らしいものをはいけんしました。ありがとうございます。今後の活躍もお祈りします。素晴らしい！
- ・岩手県にいて始めて生で拝見しました。感動
- ・鬼剣舞がかっこよすぎて泣きそうになりました。歌も良かったです。
- ・踊りが良かった
- ・具体的はまあ良かったかなと思う・・・。
- ・鬼剣舞部の皆様による演舞は、部員の方の演目の紹介も含めて非常に興味深く、思わず涙ぐんでしまう程感動しながら拝見しておりました。本当にありがとうございました。
- ・聞いて為になりました。
- ・高次脳機能障がい者がどう言う症状になるかが分かった。
- ・"元気を貰えました。当事者の話が伺えてよかった。
- ・鬼剣舞すばらしい発表でした。"
- ・初めて見ました。良かったです！

第2部への具体的な感想や印象に残った場面、改善点等について

- ・説明が丁寧で楽しみながら作ることができました。
- ・とてもよい香りの香袋を作らせて頂きました。ありがとうございました。
- ・TVで挑戦している番組を見て興味を持ちました。これなら、利用者の方も取り組みそうで良い内容と思いました。
- ・ラベンダーは眠りをさそう精油なので、他の精油も知れておもしろかった。
- ・入浴剤をつくれて良かった。今日さっそく使います。
- ・手にアロマを使い眠くなるような感かくなる
- ・スムーズさが無かった・・・
- ・残念ながら（実施会場には居たものの）タイミングを誤ったようで参加出来ずに終了時間を迎えていたので、次回はまだ少し明確なアナウンス等があると嬉しいです。

全体を通しての感想や来年度交流会への要望について

- ・当事者の方の話を聞いて良かったし、当事者の方も何人かいらっしやっていたのをおみかけしました。
- ・自分も仕事で関わる中こういう交流会があることを紹介していきたいと思います。
- ・また、参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。
- ・場所はさくらホールか、盛岡のアイーナかなーと思いました。のんびり出来る空間で良いと思います。
- ・自分と言うものをみつめなおすことができた。
- ・今までの自分がはずかしい。
- ・残りの時間はわずかだが、限られている自分、約束だから仕上げのスピード UP をしたいのです。
- ・年々参加者が増えてよかった。
- ・来年もありますか？生きていたら参加します。ありがとう。
- ・内田さんの講演は実体験を図に表し理解しやすく共感があった。
- ・楽しかった
- ・もっとスムーズに事がはこべば・・・と思う。
- ・「障がい者の苦痛」という言葉を用いていらっしやった当事者の方が居られましたが、（１０年以上）高次脳機能障がいと付き合いしてきた私としてはその「苦痛」が永遠に続くものではないと気づけたので、他の当事者の皆様の心が（も）軽くなるよう、交流会の場（機会）を持ち続けて頂けると幸いです。本日は大変ありがとうございました。

高次脳機能障がい当事者のための オンラインサロン (Zoom)

毎月
第4土曜日
10:30 - 12:00
開催予定

当事者同士の交流を目的としています。

開催日時、申込方法などの詳細については以下の通りです。

※感染症等の状況に応じて中止する場合があります。その都度、皆様にご案内いたします。

日時

4月27日	10月26日
5月25日	11月23日
6月22日	12月28日
7月27日	1月25日
8月24日	2月22日
9月28日	3月22日

方法

- メールまたは電話でお申込みください。
連絡先は下記をご確認ください。
- 事前練習について
 - ・Zoomの接続に不安のある方は事前に練習することができます。
 - ・希望の日時をメールまたは電話でお知らせください。
 - ・練習は 平日 9:00 - 17:00 までの対応とさせていただきます。
- ※ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。

お申込みはこちら

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当 後藤・上田

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243

TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807

Mail: koujinou-shien-reha@irc.or.jp



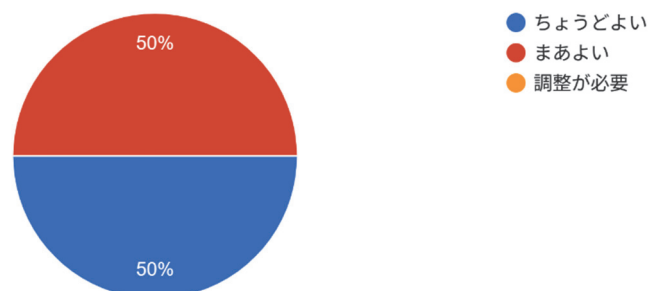
令和6年度 高次脳機能障がい当事者のためのオンラインサロン
アンケート結果

回答数：8

●質問1

開催時期・時間帯について ※令和6年度は毎月第4土曜日の10：30～12：00に開催.

開催時期・時間について	回答数
ちょうどよい	4
まあよい	4
調整が必要	0



<自由記述>

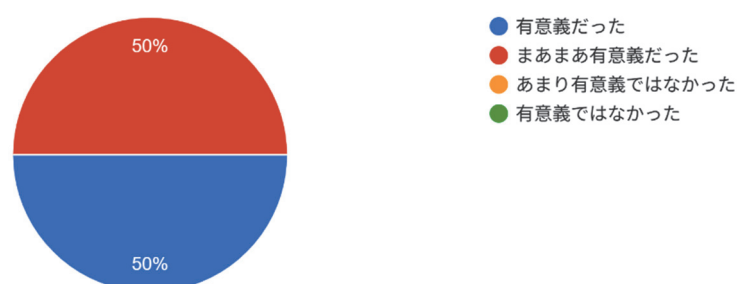
- ・平日を希望します 出来れば役所が開いている時間帯だと助かります。イベントや 家族会と時期の間隔があいていると助かります 今回、一週間に3回以上あったので開催日の調整があったら参加しやすかった。
- ・今のままで・・・

●質問2

オンラインサロンの内容はいかがでしたか？

※令和6年度は「自己紹介」「この1か月どのように過ごしたか」ということをお聞きしたあとに、当事者さんからトークテーマをご提案いただき、皆さんと話し合いました。

内容について	回答数
有意義だった	4
まあまあ有意義だった	4
あまり有意義ではなかった	0
有意義ではなかった	0



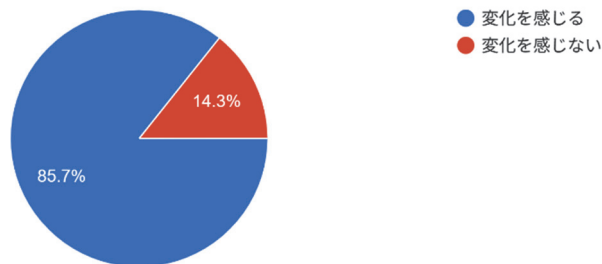
<自由記述>

- ・自己紹介を毎回話すことは避けたい 一つのテーマに話す時間を省いてもらえると助かります。 できればテーマを画面に表示して欲しい。テーマの話がそれていく事を防ぐことも対策をしてみても良いかも。
- ・今のこと、今日の事の中でも、いつの事でもこんな事があったとか、どうしたかでも良い。それが今の自分の答えとしても、次にこうしようと考えよう。
- ・年度後半からの参加ですが、考えるという事が、苦手になり、思いついても更に深く考え何も言えなくなる状態で、自分自身はただ見学だけした様な、感じに思いました。

●質問 3

オンラインサロンで当事者同士の交流を通して、日常生活、家族や職場の方との関わり、気持ちに変化を感じることはありましたか。

変化について	回答数
変化を感じる	6
変化を感じない	1
記入無し	1



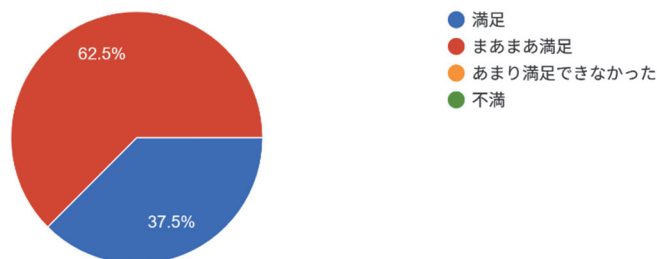
<質問 3 で「変化を感じた」と回答した方について、どのような変化を感じましたか。>

- ・自分以外の発症状態を知れて、対処方法の考え方が広まった。
- ・気持ちに余裕がもてるようになった。
- ・話を聞いてかぶることがあれば、同調して自分だけじゃないと思うし、立場がそれぞれ違うのでそれぞれのお話を聞くだけでも、自分だけという疎外感から外れることが出来たような気がします。
- ・定期的開催してされている事を有難うございます。
- ・他の方の話の中から自部の行動のいましめになっている。人であれ、物であれ、利用させて貰えるのなら、利用しよう、都合よく！

●質問 4

オンラインサロン全体を通しての感想や来年度の実施に向けてご要望をご記入ください。

感想について	回答数
満足	3
まあまあ満足	5
あまり満足できなかった	0
不満	0



<自由記述>

- ・直接会うことで色々感じとることが出来たので、前向きになれた気がした。
- ・一人あたりの話す時間を 3 分ぐらいにして欲しい。一度話したい事を書き出してから話してみたい。
- ・相手が元気であるのなら自分も次までの命をながらえる方法を考える。当時のなぜ、どうしてから今は、どうしていくべきか。皆と会える、通院できて話ができる、これもひとつのリハビリであって自分の成果といえる。いつまで通院、皆と話ができるか。そして考え方も変わったっていいじゃないか。進歩があるからだ。今までの記録からも当時の考え方と話した事が変わってしまっているから変人でいいじゃないか。
- ・職員さんの資料が役に立ってるんですが、すぐ忘れてしまっ。

高次脳機能障がいカルタ 無料配布のお知らせ

当センターでは、岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として、当事者・家族の思いを50音にのせた「高次脳機能障がいカルタ」を作成致しました。

読み札作成にはいわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴにご協力いただき、当事者・家族の皆さんの共感が得られるような内容になっています。

この度高次脳機能障がいの支援普及のため、ご希望の方に数量限定で無料配布を行うこととしました。リハビリやレクリエーションの他、当事者・家族会、障がいについての学習等にご活用いただき、この障がいについての理解を深めていただけると幸いです。



料 金： 無 料

送 料： 申込者の負担
(着払いとなります)

＜お申し込み方法＞

①ホームページ

いわてリハビリテーションセンター

高次脳機能障がい者支援普及事業のホームページ

(<http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/index.html>)

にアクセスし、申し込みフォームに必要事項をご記入の上お申し込みください。



②FAXまたは郵送

裏面の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。

※無断複製、転売の禁止、送料負担についての同意がない場合はお申込みいただけません。

【お問い合わせ】

〒020-0503

岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障がい担当

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

MAIL：koujinou-shien-reha@irc.or.jp



いわてリハビリテーションセンター 行き

FAX 019-692-5807

高次脳機能障がいカルタ 申込用紙

- ・ 下記項目を全てご記入ください。
- ・ 注意事項をご確認の上、チェックを入れてください。
チェックがない場合はお申し込みを受け付けできません。

☐ 個人 ☐ 団体

所属（団体の方のみ）	
部署（団体の方のみ）	
フリガナ	
氏名	
送付先住所 ※岩手県外の方は都道府県 からご記入ください。	〒 ー
電話番号	
使用目的 ※当てはまる項目全てに チェックを入れてください	☐ リハビリテーション ☐ レクリエーション ☐ 学習用 ☐ 普及活動 ☐ その他（ ）

【注意事項】

- ・ 申込み数が上限に達した場合は、キャンセルと致します。
- ・ 著作権はいわてリハビリテーションセンターに寄与します。
- ・ 無断複製、転売は禁止と致します。
- ・ 送料は着払いでお申込いただいた方のご負担となります。

☐ 全ての注意事項に同意しました。

Ⅲ 岩手県内の支援拠点機関一覧等

1. 岩手県支援拠点機関

名 称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森 16-243	019-692-5800

2. 地域支援拠点機関（令和 6 年度）

圏域	名 称	所在地	電話番号
宮古	相談支援事業所れいんぼー	宮古市緑ヶ丘 2-3	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲 相談室	大船渡市盛町字町 10-11- 1F	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター ・カシオペア	二戸市石切所字川原 46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第 1 地割 151-1	0194-52-8177
釜石・ 大槌	釜石広域基幹相談支援センター	釜石市定内町一丁目 8-10	0193-21-1156
胆江	金ヶ崎町障がい者基幹相談 支援センター	金ヶ崎町西根南羽沢 43 (金ヶ崎町福祉センター 内)	0197-44-6060
	奥州市基幹相談支援センター	奥州市水沢横町 2-1 メイプル地下 1 階	0197-34-2160
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目 1-26	019-652-1137
岩手 中部	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ県南支部	盛岡本部にご連絡ください	
両磐	居住地の役場障がい福祉担当課、または担当の相談支援専門員等にご相談ください。		

3. 令和6年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会出席者名簿

[委員]

所 属	役 職 名	氏 名	備 考
岩手医科大学	学長	小笠原 邦昭	会長
岩手医科大学	脳神経内科・老年科分野教授	前 田 哲 也	副会長
岩手医科大学	神経精神科学講座教授	大 塚 耕太郎	副会長
岩手医科大学	リハビリテーション医学教授	西 村 行 秀	副会長
いわてリハビリテーションセンター	副センター長	阿 部 深 雪	副会長
岩手西北医師会	参 与	及 川 忠 人	
岩手県医師会	常 任 理 事	佐 藤 直 也	
岩手県立療育センター	所 長	亀 井 淳	
岩手県立大学	社会福祉学部教授	中 谷 敬 明	
いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	代 表	堀 間 幸 子	
いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	ピアサポーター	阿 部 類	
岩手障害者職業センター	所 長	奥 村 博 志	
岩手県社会福祉事業団	事務局次長	與 羽 勝 則	
岩手県社会福祉協議会 障がい者福祉協議会	会 長	松 田 賢 雄	
社会福祉法人カナンの園	監 事	大信田 康 統	
盛岡広域圏障害者地域生活支援センターMy夢	所 長	工 藤 宏 行	
岩手リハビリテーション心理研究会	代 表	山 舘 圭 子	
地域活動支援センター星雲 相談室	相談支援専門員	田 村 将 和	
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	主任相談支援専門員	佐々木 大介	
岩手県福祉総合相談センター	障がい保健福祉課長	平 賀 恵	
岩手県教育委員会	特別支援教育課長	最 上 一 郎	
盛岡市保健福祉部	障がい福祉課長	小 原 幹 男	
岩手県保健福祉部	障がい保健福祉課総括課長	佐々木 浩 一	

[岩手県保健福祉部]

所 属	役 職 名	氏 名	備 考
岩手県保健福祉部障がい保健福祉課	こころの支援・療育担当課長	内 舘 健 介	
	こころの支援担当主事	高 橋 希 望	

[県支援拠点機関]

所 属	役 職 名	氏 名	備 考
いわてリハビリテーションセンター	センター長	佐 藤 義 朝	
	副センター長	今 野 秀 一	
	医療連携部副部長	上 田 大 介	
	医療社会事業士	後 藤 敦 博	

令和6年度 高次脳機能障がい支援担当者名簿

No.	職 名	氏 名	担 当
1	副 セ ン タ ー 長 兼地域支援部長	今野 秀一	事業統括
2	地域支援部副部長	石川 美弥子	地域支援
3	看護部長	内野 邦江	イーハトーヴ支援
4	看護部副部長	齊藤 由利子	研修
5	作業療法士	吉田 雄哉	研修、当事者交流会
6	言語聴覚士	菅原 慎	ＨＰ・メールニュース・支援ツール、当事者交流会
7	主任臨床心理士	吉田 賢史	相談支援、ＨＰ・メールニュース・支援ツール
8	臨床心理士	村田 美歩	相談支援、当事者交流会
9	医療連携部副部長	上田 大介	相談支援、地域支援、研修、イーハトーヴ支援、当事者交流会、事務局
10	医療社会事業士	後藤 敦博	相談支援、地域支援、研修、ＨＰ・メールニュース・支援ツール、イーハトーヴ支援

【編集後記】

当事業の実施にあたり、2024 年度も県内外問わずたくさんの方にご協力・ご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。

2024 年度は、地域支援拠点機関と協働して研修会や交流会を実施すること、高次脳機能障害とは直接は関わらなくても「親亡き後」や「家族として本人にどう関わるか」等の共通した課題の解決に向けて活動している団体との「ヨコのつながり」を形成することを意識し、事業に取り組みました。また、交流会を通して、高校生や一般の方に高次脳機能障がい当事者が自らの作品(絵や書道)を通じて症状について話す機会を設けることで、当事者だからこそ分かる視点やどのように生活課題を解決してきたか(しているか)を共有することができました。

引き続き、県内の当事者、家族、支援者の皆様と共に高次脳機能障害の理解や支援が拡充されていくよう尽力して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

(後藤敦博)

2024 年度

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243

T E L 019-692-5800

F A X 019-692-5807

E-mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp

H P <http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/>

